

和仏法律学校講義録

栗津, 清亮 / 富谷, 銈太郎 / 矢作, 榮藏 / 梅, 謙次郎 / 杉
本, 貞治郎 / 下村, 宏

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-22

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1899-12-25

第貳拾貳號

和佛經濟學
講義錄

第貳拾貳號

每月一回

目

次

商法修正要領(自六五頁至八四頁) 法學博士 梅謙次郎

商法會社(自五九頁至七四頁) 法學士 杉本貞治郎

財政學(自三〇頁至三三頁) 法學士 下村宏

商法保險(自二四頁至二七頁) 法學士 栗津清亮

經濟學(自六五頁至七二頁) 法學士 矢作榮藏

手形法(自六八頁至六九頁) 法學博士 富谷銈太郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

090

1899

2-7-22

西洋ニ於テハ非常ニ之ヲ貴重セリ然ルニ日本ニ於テハ西洋ノ如ク「騰寫インキ」ヲ以テ信書ヲ認メ直ニ之ヲ騰寫スルカ如キ慣習ナク隨テ他方ヨリノ來信ヲ保存スルハ必スシモ難事ニアラスト雖モ之ニ對スル自己ノ信書ノ騰本ヲ保存スルカ如キコト稀ナリ尤モ盛大ナル會社ニ在リテハ其信書ヲ騰寫シテ保存スルコトアリト雖モ一般ノ商人ハ此ノ如キ方法ヲ用フルコトナシ故ニ先方ノ信書ノミヲ保存セシムルモ何等ノ効ナシトシ遂ニ信書保存ノ義務ヲ命セサリシカ予ノ如キハ已ムナクハ先方ノ信書ノミニテモ之ヲ保存セシムルノ必要アリト信ス即チ後日爭ノ起ルニ及ヒ双方ヨリ之ヲ提出セシムルトキハ多少ノ證據物件タルコトヲ得ヘシ新商法ハ此見解ヲ採リ營業ニ關スル信書ハ十年間之ヲ保存スルノ義務ヲ命シタリ

第四 商業帳簿ノ證據力ニ關シ舊商法ハ實ニ冗漫ナル規定ヲ爲シ商業帳簿ニ關スル規定ノ過半ハ悉ク其證據力ニ關セリ即チ裁判所ニ提出スヘキ場合又ハ商業帳簿ノ證據力等證據法ニ屬スル規定ヲ單列セザル今回ハ全ク之ヲ削除セリ蓋シ證據ノ事ハ總テ民事訴訟法ニ屬スルカ故ニ民法又ハ商法中ニ之ヲ規定

正 誤

第二十二號掲載ノ矢作學士經濟學七一頁七
二頁ハ都合ニ因リ多少ノ變更ヲ加フルノ必
要アリシヲ以テ本號ニ於テ訂正ノ上更ニ掲
載セシニ由リ前號ノ分ハ反古ト知ル可シ

スヘキニアラス現ニ舊商法ノ商業帳簿ニ關スル規定ハ現行民事訴訟法ト或ハ重複セリ或ハ抵觸セリ而シテ民事訴訟法ハ目下修正案調査中ニ在ルヲ以テ他日民法商法ト相待テ圓滑ニ行ハルヘキ民事訴訟法ノ制定アルヘキハ疑ナキ所ナリ且ツ多クハ現行民事訴訟法ト其主義ヲ同シウシ證據ノ事ハ甚タシク東縛セヌ寛大ナル規定ヲ設クヘント信ス

第七章 商業使用人

新商法ニ於テ「商業使用人」ト稱スルハ凡ソ商業上ニ於テ使用スル所ノ一切ノ雇人ヲ謂フ舊商法ニ於テモ之ト始ト同一ノ意味ヲ以テ「商業使用人」ナル名稱ヲ用ヒシカ商業使用人ノ外別ニ「代務人」ナルモノアリ而シテ此代務人ハ必スシモ雇人ニアラス例ヘハ夫カ商業ヲ營ム場合ニ於テハ妻ヲ代務人トスルコトアリ又ハ親族ヲ代務人トスルコトアリ此等ノ者ハ固ヨリ雇人ニアラス即チ商業使用人ニアラスト雖モ代務人ナリ舊商法ニ於テハ此ノ如ク商業使用人ト代務人トヲ區別セシカ勿論商業使用人ト稱スル者ハ必スシモ純然タル雇傭關係ノ存ス

ル者ノミニアラス夥クモ商法ノ規定ヨリ言ヘハ商業使用人ハ讀テ字ノ如ク商人カ商業ニ關シテ使用スル所ノ者ヲ廣ク商業使用人ト稱スルナリ而シテ新商法ノ語ヲ以テセハ妻其他ノ親族ヲ商業使用人トシテ使用スルハ敢テ法律ノ禁スル所ニアラスシテ等シク商業使用人ナリ其雇傭關係ノ存スルト否トニ付テハ商法ノ規定ハ何等ノ區別ヲ設クスト雖モ唯一般ニ之ヲ言ヘハ雇人ニシテ雇人ニアラサル場合ハ所謂絶無稀有ノ場合ナリ新商法ニ於テハ此ノ如キ區別ヲ爲サス總テ商業使用人ト稱シ而シテ使用人ヲ分テテ三段ト爲セ第一ニ「支配人」第二ニ「番頭」又ハ「手代」第三ニ「其他ノ使用人」トセリ尙ホ舊商法ニ於テハ代務人ト商業使用人トヲ區別スルノ外其商業使用人中ニ種々ノ種類ヲ設ケタリ即チ舊商法第五十一條ニ於テ何人ニテモ商業上商業主人ノ業務ヲ辨セシカ爲メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常其擔當職分ノ範圍内ニ屬ス可キ總テノ取引及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ十分ノ効力ヲ以テ爲スコトヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタルト否トヲ問ハス其取引及ヒ行

爲ニ因リテ主人獨リ權利ヲ得義務ヲ負フ使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲セ又ハ裁判所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ限ル使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書添フルコトヲ要ストアリ故ニ營業全部ノ爲メニ置ク使用人アリ又其一部ノ爲メニ置ク者アリ又或一種ノ取引ノ爲メニ置ク使用人アリ而シテ新商法ハ必スモ此等ノ區別ヲ變更シタルニアラスト雖モ法律上此ノ如キ區別ハ全ク其必要ヲ認めタルカ故ニ之ヲ廢シタルノミ然リト雖モ舊商法ニ「代務人」稱スル者ト新商法ニ「支配人」稱スル者トハ必スモ同一ナラス而シテ此「支配人」ナル名稱ハ從來久シク用ヒ來リタル名稱ナリト云フニ過キスシテ舊商法ニ用ヒタル名稱ハ從來ノ慣例ニ於テ用ヒタルモノ多ク是レ實際ニ適セサルヲ以テ從來ノ名稱ヲ用フルノ優レルニ如カストシ「支配人」ナル名稱ヲ用ヒ「代務人」ナル文字ヲ用ヒス又番頭「手代」等ノ文字ハ久シク日本ニ於テ用ヒラル文字ナルカ故ニ等シク之ヲ認めタリ觀シテ舊法典ニ於テハ民法ニ於テ慣用ノ名稱ヲ認ムルニ拘ラス却テ商法ニ認めタルモノアリ而シテ其權限ノ點ニ付テハ支配人ハ大體代務人ニ類似シテ又ニ番頭手代ニ付テハ新商

法ノ取所所ノ主義ニ依レハ單ニ主人ノ代理人トシテ一定ノ業務ヲ行フヘキモノタルコトヲ認メ其他ハ各商人ノ自由ニ任セ如何ナル權限ヲ與フルモ可ナリ唯新商法ニ於テハ番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノト規定セリ此規定アルカ爲メニ自ラ民法上ノ委任ノ場合ニ比較スレハ其權限稍々廣シ即チ民法ニ於テハ原則トシテ受任者カ有スル權限ハ委任契約ヲ以テ特定メタル事項ニ限ル然ルニ商法ノ規定ニ依レハ番頭手代ハ明カニ委任セサル事項ト雖モ委任シタル事項ニ關係アル事項ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得故ニ此點ニ於テ民法上ノ委任ヨリ廣シ而シテ餘ハ民法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ他ノ使用人即チ番頭ニモアラス手代ニモアラサル者ハ原則トシテ此ノ如キ權限ヲ有セス單ニ勢力ヲ供スルモノニシテ法律行爲ヲ主人ニ代リテ爲ス者ニアラスト看做セリ然レトモ是レカ爲メニ代理ヲ禁スルニアラス單ニ此ノ如キ權限ノ有セサル者ト推定セルノミ故ニ主人カ特ニ一定ノ業務ヲ委任シテ代理ヲ爲サシムルコトヲ妨ケサルハ固ヨリ當フヲ俟タヌ是レ新商法ト舊商法トノ異レル第一點ナリ

第二 舊民法ニ於テハ商業使用人ニ關シ其雇傭關係ノ點ヲモ規定セリ而シテ其規定ハ却テ民法ノ雇傭ノ規定ヨリモ詳細ニ亘レリ若シ商業使用人ニ關シ此ノ如キ詳細ノ規定ヲ必要トセハ同シタ他ノ雇人即チ僕婢ノ類ニ付テモ一樣ノ規定ヲ置カサルヘカラス單ニ商業使用人ノミニ付テ此ノ如キ詳細ノ規定ヲ必要トスル理由ナシ加之商法ノ規定ト民法ノ規定トハ全ク矛盾セル所多シ而モ其規定ヲ異ニスヘキ理由アルヲ見ス新法典ニ於テハ民法ニ於テ舊民法ノ雇傭ノ規定ヲ補足セシト同時ニ民法ニ規定セル雇傭ノ規則ハ民事商事ニ通シテ適用セラレ商事上ノ雇傭契約タルト其以外ノ雇傭契約タルトヲ問ハス總テ民法ノ規定ニ依ルヘキモノトシタリ其詳細ハ素ヨリ民法ノ講義ニ屬スルカ故ニ此ニハ説明セス

第三 委任ニ付テモ舊民法ニハ秘密ナル規定ヲ置キ而シテ其規定モ亦民法ノ委任ノ規定及ヒ商法ノ一般ノ代理ノ規定ト異レリ是レ實ニ謂レナキコトナリトス蓋シ商業使用人中支配人ハ特ニ廣キ權限ヲ有シ假令特約ヲ以テスルモ其權限ヲ制限スルコトヲ得ス即チ制限ノ特約ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト

ヲ得ス又支配人ハ此ノ如キ廣キ權限ヲ有スルカ故ニ其何某ノ支配人タルコトヲ何人ニモ知レ得ルヤウ之ヲ公示セサルヘカラス而シテ之ヲ公示スルコトハ商業上大ニ便利アリ故ニ支配人ニ付テハ登記ヲ爲サシメ其登記アル者ハ支配人ニシテ支配人ハ必ス一定ノ權限ヲ有スルカ故ニ世人ハ安シテ之ト取引ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ之カ爲メニ登記ノ必要アリ又權限ニ關スル規定ヲ必要トスルハ固ヨリ言フヲ俟タサル所ナリト雖モ委任契約ニ關スル規定ノ如キハ毫モ之ヲ必要トセス若シ強テ此等ノ規定ヲ必要ナリトセハ管ニ商業使用人ノ場合ノミナラス他ノ場合ニ於テモ同シク必要ナリト謂ハサルヘカラス而シテ民法ノ規定ハ一般ニ必要ナルモノヲ網羅セルヲ以テ總テ之ニ依ルヘキモノナリトシ新民法ニハ舊民法ニ規定セル事項ト雖モ一般ニ用ヒテ可ナルモノハ之ヲ用フルコトトシ其他ハ民法ニモ商法ニモ更ニ規定セス唯前ニ述ヘタル番頭手代ニ付テ極メテ簡單ナル規定及ヒ支配人ニ關スル右ノ如キ特別規定アルノ旨ハ商業上ハ代理權ニ關シテハ後ノ商行爲ノ編ニ於テ多少民法ト異レル規定

アリト雖モ此等ハ固ヨリ商業使用人ニ付テモ適用セラレルモイナリ此ノ如ク
舊商法ニ於テ商業使用人ニ關シ委任ノ事及ヒ雇傭ノ事ヲ詳細ニ規定セシハ會
ヲ述ヘタル如ク商法ノミ單獨ニ行ハレテ不便ナカラシコトヲ期シタルニ因ル
ト雖モ今回ハ民法ト併セ行ハルルコトト爲リシヲ以テ其理由消滅セリ故ニ此
ノ如キ規定ヲ必要トセス

第四 新商法第三十二條ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ト殆ト異ナルコトナ
シト雖モ多少之ヲ増補シタルモノナリ即チ第三十二條ハ支配人カ主人ノ許諾
ヲ得シテ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲セ又ハ會社ノ無限責任社員ト
爲ルコトヲ得ストノ規定ニシテ若シ之ニ違反シテ支配人カ自己ノ爲メニ商行
爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ其商行爲ヲ以テ自己ノ爲メニ爲セタルモノト看做
スコトヲ得ヘシ是レ舊商法第五十條ノ規定ト略ホ同一ナリト雖モ亦全ク差異
ナシト謂フコトヲ得ヌ即チ舊商法ニ於テハ第三者ノ爲メニ爲セタル行爲ト雖
モ之ヲ主人ノ爲メニ爲セタルモノト看做スコトヲ得タルモ是レ稍ヤ酷ニ失ヌ
ルヲ以テ今回ハ支配人カ自己ノ爲メニ爲セタル行爲トモモ付キ適用アルコト

トセリ且ツ舊商法ニ於テハ其權利ノ消滅スル期限ニ付キ何等ノ規定ナシ故ニ
極論スルトキハ主人ハ數年前ノ取引ヲモ尙ホ自己ノ取引ト看做スコトヲ得ト
謂ハサルヘカラス例ヘハ三年前ニ於テ支配人カ自己ノ爲メニ商品ヲ買入レ其
取引ニ因リテ大ニ利益セリ然ルニ主人ハ既ニ三年ヲ經過シタル今日ニ至リ突
然其取引ヲ自己ノ取引ト爲サンコトヲ請求シ支配人ハ之ニ應セサルヘカラス
トセハ其迷惑實ニ想フヘキナリ且ツ法律行爲ハ多クノ場合ニ於テ相手方アル
カ故ニ其行爲ヲ主人ノ行爲ト爲スト支配人ノ行爲ト爲ストハ單ニ支配人ノ利
害ニ關スルノミナラズ相手方ノ利害ニ關スルコト多シ隨テ其行爲ハ永ク不確
定ノ狀態ニ在ラシムルコトヲ得ヌ仍テ新商法ニ於テハ之ニ期限ヲ附シ其權利
ハ主人カ其行爲ヲ知リタルトキヨリ二週間又ハ其行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過
スルニ因リテ消滅スルモノトセリ故ニ主人カ其行爲ヲ知リテ後二週間内ニ之
ヲ自己ノ取引ト爲スコトヲ明言セサルトキ又ハ之ヲ知ラズシテ一年ヲ經過
シタルトキハ後日ニ至リ其取引ヲ以テ自己ノ取引ナリト看做スコトヲ得ヌ尤
モ此場合ニ於テハ主人ハ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘク又雇傭契約ノ上

ヲ契約違反トシテ解約スルコトヲ得ルハ言フヲ俟タスト雖モ是レ自ラ別問題ニシテ要スルニ主人ハ支配人ノ行爲ヲ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得サルニ至ルモノナリ是レ商業使用人ニ關シテ新商法ト舊商法トノ異ナル重ナル點ナリトス

第八章 代理商

第一 舊商法ニハ代理商ナルモノナクシテ代辦人ナルモノアリ而シテ所謂代辦人ナルモノハ他人ノ代理人トシテ商行爲ヲ爲スコトヲ營業トスル者ノ總稱ナルカ故ニ代辦人ナル者ノ中ニハ新商法ニ所謂代理商及ヒ其他ノモノヲ包含セリ然ルニ西洋ノ事ハ姑ク措キ日本ニ於テハ代理商ト看做スヘキモノ極メテ多ク彼ノ代理店ト稱スルモノノ如キモ多クハ代理商ニ外ナラス之ニ反シ單ニ商業上何人ノ依頼ニ應シテモ常ニ代理ヲ爲ス代理營業ハ現今多ク之ヲ見サルカ如シ隨テ此ノ如キ代理營業ニ關シ舊商法ノ如ク詳細ノ規定ヲ設クルノ必要ナク法律ハ總テ必要ニ應シテ其規定ヲ設クルモノナルカ故ニ特ニ之カ規定ヲ

置カス而シテ此等ノ事項ハ固ヨリ一般ノ規定ニ依ルコトヲ得ルモノナルカ故ニ更ニ不便ヲ感スルコトナシト雖モ之ニ反シ所謂代理商ナルモノハ現今極メテ多ク見ル所ニシテ之ニ關スル特別ノ規定ヲ設クルハ極メテ必要ナリトス是レ新商法カ代辦人ノ規定ヲ削除シ特ニ代理商ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發セサルヘカラス是レ固ヨリ必要ナル義務ナリトス何トナレハ其行爲ノ利害得失ハ直ニ本人ニ其効果ヲ及ホスモノナルカ故ニ本人ハ急速ニ其行爲ヲ知ルノ必要アルノミナラス本人ハ之ニ因リテ間接ニ代理商ヲ監督スルノ便宜ヲ得ヘケレハナリ舊商法ニ於テハ此點ノ規定ヲ缺キシカ新商法ハ特ニ此規定ヲ置ケリ即チ第三十七條ニ曰ク

代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三 新商法第三十八條ニ於テハ支配人ニ關スル第三十二條ノ規定ト稍々同一ノ規定アリ曰ク

代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ代理商カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

此規定ハ極メテ必要ナリトス何トナレハ新商法ニ所謂代理商ハ一定ノ商人ノ爲メニ平生其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲スモノナリ然ルニ本人ノ許諾ナクシテ自己ノ爲メニ又ハ第三者ノ爲メニ同種ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシトセハ勢ヒ利益アルトキハ之ヲ自己ノ取引ト爲シ損失アルトキハ之ヲ本人ノ取引ト爲スカ如キ弊ナシトセス故ニ支配人ニ關シ第三十二條ノ規定ヲ必要トスルト同シク代理商ニ付テモ第三十八條ノ規定ヲ必要トセサルヘカラス然ルニ舊商法ニ於テハ全ク之ヲ缺ケリ

第四 是レ亦舊商法ニ見サル所ニシテ新商法第四十條ノ規定スル所ナリ曰ク
當事者カ契約ノ期間ヲ定メザリトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲

シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
蓋シ代理商ナルモノハ本人ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ常ニ本人ノ營業ニ屬スル商行爲ヲ爲スモノナリ故ニ本來ノ性質ハ代理人ナリト雖モ普通ノ代理人トハ大ニ其趣ヲ異ニシ寧ロ支配人ニ近キモノナリ換言スレハ普通ノ代理人ト商業使用人トノ中間ニ位スルモノナリ而シテ一方ニ於テハ此ノ如キ密接ノ關係ヲ久シク繼續スルハ甚タ困難ナル事情アリト雖モ又一方ニ於テハ突然之ヲ謝絶スルニ於テハ本人又ハ代理商ニ取リテ非常ニ迷惑ナリト謂ハサルヘカラス故ニ契約上期間ノ定メアル場合ハ固ヨリ其期間ニ依ルヘキモノナリト雖モ其期間ノ定メナキトキハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ヲ解除スルコトヲ得即チ此場合ニ於テハ本人又ハ代理商ハ或ハ他ノ代理商ニ其代理ヲ命シ又ハ他人ノ代理商ト爲ルコトヲ得ヘキヲ以テ互ニ迷惑ヲ感スルコトナシ是レ右ノ規定アル所以ナリ而シテ舊商法ニ於テハ代辦人ノ範圍ヲ大ニ擴張シ廣ク商業

上ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスル者ヲ主トシテ規定セラルル今同ハ主トシテ代理
商ノ事ヲ規定セリ否代理商ノ事ノキヲ規定セ而シテ他ヲ規定セズ

第九章 會社

第一 舊商法ニ於テハ商法ニ規定セラル會社ノ規定ヲ單ニ商業ヲ目的トスルモ
ノ即チ商事會社ニノミ適用スルノ主義ヲ採リ唯例外トシテ株式會社ノ規定ノ
ミハ商業以外ノ目的ヲ有スルモノト雖モ株式組織ヲ取レルモノニハ悉ク
適用セラルルコトセリ然レトモ是レ充分ノ理由ニ乏キ所ナリトス蓋シ株
式會社以外ノ會社ハ多クノ場合ニ於テ民法ノ規定ヲ以テ十分トスヘク即チ舊
民法ノ如キ規定アルトキハ之ニ依ラザルコトヲ得ヘシト雖モ若シ此ノ如キ
主義ヲ採ルトキハ株式會社以外ノ會社ヲ法人ト爲サントスル場合ニ於テモ亦
民法ニ依ラシメザルコトヲ得ズルカ故ニ勢ヒ民法中ニ法人ニ關スル規定ヲ置
カサルヘカラス隨テ恰モ舊民法ト舊商法トノ如ク明カニ重複セタル規定ヲ双
方ニ見ルニ至リ法典ノ體裁上甚タ其宜ヲ得サルナリ諸君試ニ舊民法ノ會社ノ

部ト舊商法ノ會社ノ部トヲ對照比較セハ其間一様ノ規定多キニ驚クヘシ而シ
テ其重複セル規定ノ數ニ重複セルノミナラハ尙ホ可ナリ其互ニ相支吾シ全然
其調和ヲ缺クモノアルニ至リテハ其當ヲ得サルコト固ヨリナリ然レトモ若シ
新民法ノ如ク其目的ノ如何ニ拘ラス法人ニ關スル規定ハ單ニ公益法人ニ關ス
ル規定ノミニ止メ其營利法人ニ關スル規定ハ之ヲ民法ヨリ省キ且ツ會社民法
ニハ組合ト云ヘリノ事ニ關シテハ唯其社員間ノ關係即チ會社契約組合契約ニ
關スル事項ノミヲ規定スルトキハ勢ヒ他ニ營利法人ニ關スル規定ナカルヘカ
ラス然リト雖モ營利法人ノ規定ヲ民法ニモ置キ又商法ニモ置クカ如キハ全ク
其必要ヲ見ス寧ロ之ヲ其一方ニ集ムルヲ以テ穩當トス而シテ實際ノ適用上ヨ
リ之ヲ言ヘハ商事會社ニ付テ其適用多キコト勿論ニシテ會社ハ其中ノ八九
事ノ百中ノ九十七八ハ商事會社ナルカ故ニ其規定ハ主トシテ商事會社ヲ標準
トシテ之ヲ定ムヘク隨テ之ヲ商法中ニ網羅スルヲ以テ其所ヲ得タルモノナリ
トス是ヲ以テ新民法ニ於テハ營利法人ニ關スル規定ヲ全ク民法中ヨリ除外セ
唯組合ノ契約關係ノミヲ規定セシカ故ニ營利法人即チ商業以外ノ目的ヲ以テ

利益ヲ營マントスル會社ヲ法人ト爲サント欲スルトキハ商事會社ト同シク商
法ニ依ルヘキコトト爲レリ此點ニ於テ新舊商法ノ規定ヲ異ニセリ
第二 會社ノ種類ニ付テハ新商法ニ於テハ合名會社合資會社株式會社株式合
資會社ノ四種ニ限ルコトヲ明定セリ即チ第四十三條ニ曰ク

會社ハ合名會社合資會社株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

然ルニ舊商法ニ於テハ此點ニ關シ明瞭ナル規定ヲ缺ケリ然レトモ予ハ舊商法ニ
於テモ亦合名會社合資會社株式會社ノ三種ニ限レルモノナリト信ス尤モ此點ニ
付テハ反對說ヲ唱フル者少ナカラス或ハ商業ヲ目的トスル會社ハ必スシモ右
三種ノ組織ヲ取ルコトヲ要セスト主張スル者アリ然レトモ此說ハ全ク誤謬ノ
說ナリト思考ス何トナレハ若シ此ノ如キ說ヲ採ルトキハ商法ニ種々嚴重ナル
規定アリ而シテ其規定ニ依ラサラント欲セハ多少其組織ヲ變更スレハ可ナリ
即チ株式會社ニ付テハ極メテ面倒ナル規定アリト雖モ其規定ノ束縛ヲ脱セン
ト欲スルトキハ株式會社ニ類似シ而モ株式會社ニ非サル一種特別ノモノヲ組
織スレハ足レリ例ヘハ株式會社ハ一株ノ金額ヲ一定スルノ必要アリト雖モ之

ニ依ラスシテ甲ハ百圓ノ株ヲ引受ケ乙ハ千圓ノ株ヲ引受ケ而シテ餘ハ之ヲ株
式會社ト類似シタル組織ト爲シ且ツ商法ノ面倒ナル規定即チ取締ノ規定ハ之
ヲ避ケテ定款中ニ便宜ノ規定ヲ設クルモ妨ケナシト謂ハサルヘカラス果シテ
此ノ如クンハ商法ノ規定ハ全ク空文ニ屬シ何等ノ効用ヲ爲ササルカ故ニ三種
以外ノ會社ヲ設立スルコトヲ得ヘシト云フハ全ク誤レリト信ス今回ハ此ノ如
キ疑ヲ防カンカ爲メ明確ナル規定ヲ設ケタリ
歐洲ノ大陸諸國ニ於テハ大抵株式合資會社ナルモノヲ許セリ唯英國ノ會社法
ハ一種特別ニシテ日本ノ商法等トハ全ク其編成ヲ異ニスルカ故ニ之ヲ比較ス
ルコトヲ得スト雖モ大陸諸國ニ於テハ此種ノ會社ヲ認メサルモノ殆トナシ尤
モ今日ニ於テハ其數多カラスト雖モ現ニ存在セル株式合資會社ハ何レモ信用
ヲ博セツ、アリ而シテ其數ノ少ナキコト并ニ信用ヲ博セル所以ハ固ヨリ理由
ノ存スルコトニシテ株式合資會社ノ詳細ハ後ニ説明スヘシト雖モ此ニ其大體
ヲ一言センニ抑モ株式合資會社ナルモノハ無限責任社員アリテ會社ノ業務ヲ
執行シ一般ノ株主ハ業務ノ執行ニ與ラス又普通ノ株式會社ニ於ケルカ如ク株

主中ヨリ取締役ヲ選舉スルコトナシト雖モ等シク株主總會ナルモノアリテ間
接ニ無限責任社員ノ業務ヲ監督スルモノナリ然ルニ此ノ如キ組織ノ會社ハ容
易ニ之ヲ設立スルコトヲ得ス先ツ無限責任社員ノ側面ヨリ之ヲ言ヘハ他ノ社
員即チ株主ハ皆有限責任ニシテ其株式以外ニ於テハ更ニ何等ノ責任ヲ負フコ
トナク假令巨萬ノ富ヲ有スル者ト雖モ其株式以外ノ損害ヲ被ムルコトナシ然
ルニ無限責任社員ハ其全財産ヲ以テ責任ヲ負ハサルヘカラスナルニ拘ラス株主
總會ナルモノアリテ常ニ制肘ヲ受ケ敢テ自己ノ隨意ニ萬事ヲ處理スルコトヲ
得ス故ニ此ノ如キ會社ノ無限責任社員タルコトハ之ヲ希望スル者稀ナルヘシ
又株主ノ方ヨリ之ヲ考フルモ株主ハ一定ノ資本ヲ出シ中ニハ莫大ノ資本ヲ出
セル者アリ而シテ會社ハ畢竟其資本ニ依リテ營業ヲ爲セルモノナリ然ルニ其
營業ノ管理者即チ取締役トモ言フヘキ者ハ之ヲ株主總會ニ於テ選定スルコト
ナク常ニ必ス無限責任社員ヲシテ之ニ當ラシメタルヘカラス而シテ其無限責
任社員カ假令不適任ナル場合ニ於テモ之ヲ改選スルコトヲ得ス隨テ多クハ此
ノ如キ會社ノ株主タルコトヲ欲セス然レトモ又一方ヨリ之ヲ觀察スレハ此種

ノ會社ノ設立セラルルハ其發起人タル無限責任社員カ資產ニ於テモ又設備ニ
於テモ十分世人ヲ必服セシムルニ足ルヘキ場合ニシテ此ノ如キ場合ニ於テモ
假令株主總會アリト雖モ單ニ形式ニ止マリ其無限責任社員カ自己ノ行爲ニ付
キ十分ノ説明ヲ與フルトキハ株主總會ニ於テモ別段ノ異議ヲ挾ムコトナカル
ヘシ隨テ無限責任社員ニ取リテモ自由ニ業務ヲ執行スルコトヲ得テ毫モ不便
ヲ感スルコトナク又株主ニ取リテモ假令自己ノ任意ニ取締役ヲ選定スルコト
ヲ得スト雖モ其任ニ當ル者ノ正直ニシテ且ツ資產ヲ有シ商業上ノ經驗アリ智
識アル人物タル以上ハ假令任意ニ選舉スル場合ニ於テモ當然此ノ如キ人物ヲ
選舉スルカ故ニ之ニ對シテ不滿ナカルヘシ結局普通ノ株式會社ニ比シテ優
所アルモ劣ル所ナシトス而シテ萬一ノ場合ニ於テハ業務ヲ執行スル社員カ無限
ノ責任ヲ負擔スルカ故ニ世間ノ信用モ一層厚ク概シテ此ノ如キ事情ノ下ニ起
リシ株式合資會社ハ極メテ堅固ニシテ普通ノ株式會社ニ比シ一段ノ信用ヲ博
シ隨テ其事業ノ罪ルヘキハ言フヲ稀タス仍テ予ノ如キ年來株式合資會社ハ
極メテ必要ナルモノタルコトヲ感シ世ノ識者モ多ク其必要ヲ認メタリシカ

新商法ニ於テハ遂ニ之ヲ會社ノ種類中ニ加ヘタリ又之ヲ制設スルニ付テハ各地ノ商業會議所ニ諮問シ其意見ヲ徵セシニ何レモ其必要ヲ認メタリ又舊商法ノロニスレル氏ノ説明ヲ見ルニ株式會社ニ於テモ取締役ハ自己ノ在任中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ特ニ連帶ノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ株式合資會社ト同一ノ働キヲ爲スコトヲ得ヘシトノ意見ナルカ如シ然レトモ是レ大ナル謬見ナリ何トナレハ業務執行中ノ義務ニ付テハ無限責任ヲ負フヘキ取締役ナルモノハ選舉ニ因リテ就任セルカ故ニ何時其任ヲ解カルルヤモ知ルヘカラス又自己ヨリ之ヲ辭任スルコトナシトセス而シテ若シ其任ヲ去ルトキハ其以後ノ義務ニ付テハ毫モ責任ヲ負フコトナク隨テ株式合資會社ニ於ケルカ如ク會社ノ繼續セル間ハ終始一定ノ社員ニ於テ其責任ヲ負ハサルヘカラスルモノトハ大ニ其事情ヲ異ニスルモノアレハナリ

次ニ新商法ノ合資會社ハ之ヲ舊商法ノ合資會社ト混同スヘカラス新商法ノ合資會社ハ是レ亦歐洲ノ大陸諸國ニ於テ盛ニ行ハルル所ニシテ沿革上ヨリ之ヲ言ヘハ西洋ノ會社中最モ古キモノナルカ如シ即チ今論シタル株式合資會社ト

又社員ハ第六十三條ノ規定ニ依リ會社財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニハ連帶シテ辨濟ノ責ニ任ス此責任ハ破產手續ヲ取ラスシテ清算手續ニ依リ殘餘財産ノ分配ヲ爲シタル後ニ至リテ生スルコトアリ例ヘハ實際ハ會社財産カ債務ヲ辨濟スルニ足ラザリシヲ清算人カ知ラスシテ或債權者ニ辨濟ヲ爲サスシテ計算ヲ結了シ殘餘財産ヲ分配セルニ後日ニ至リ債權者カ請求スルカ如キ場合アルヘシ此ノ如キ場合ニハ社員ハ往々善意ニテ分配ヲ受タルナリ故ニ此責任ニ相當ノ消滅期間ヲ與フルヲ要スルナリ第百三條ハ之ヲ解散ノ登記後五年トセリ

第百三條第二項ハ未タ分配セサル殘餘財産アルトキハ會社ノ債權者ハ解散ノ登記後五年ヲ經過シタル後ト雖モ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルコトヲ規定セリ然レトモ此請求ハ第六十三條ノ責任ニ關スルモノニアラス會社財産ニ對シテ辨濟ヲ求ムルモノナリ

第三章 合資會社

合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス第一〇四條是レ實

ニ合資會社ノ特徵ナリ合資會社カ合名會社ト異ナル所ハ單ニ此有限責任社員アルカ爲メナリ此有限責任社員ト無限責任社員トノ關係ハ恰モ彼ノ匿名組合ニ於ケル營業主ト匿名者トノ關係ノ如ク有限責任社員ハ單ニ一定ノ出資ヲ爲スニ止マリ其出資以外ニ責任ヲ負ハサルニ反シテ無限責任社員ハ其全財産ヲ以テ會社債務ニ付キ責任ヲ負フナリ而シテ此無限責任社員アルカ故ニ其團結ノ基礎ハ亦各人相互間ノ信用ヲ離ルハコト能ハス是ヲ以テ其社員モ亦甚タ多カラス故ニ大體合名會社ト同一ノ規定ニ從ハシムヘキ點多シ是レ第五百五條ニ於テ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用スト規定セタル所以ナリ舊商法ニ於テモ其第三百三十七條ニ於テ之ト同様ノ規定アリシカ其組織ニ關シテハ甚タ奇異ナル主義ヲ採リタリ即チ全ク有限責任社員ノミヲ以テ組織スル合資會社ヲ認メ從テ其社員ノ數モ甚タ多數ナル場合ヲ想像シテ總會ニ關スル規定等ヲ設ケタリ故ニ商法施行法第三十八條ヲ以テ舊商法ニ依リ設立セタル會社ニハ商法施行後ト雖モ舊商法ノ規定ヲ適用シ又同第七十條ニ於テ舊商法ニ定メタル合資會社ハ組織ヲ變更セテ新商法ノ合資會社株式

會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ許セリ

合資會社ニハ大體合名會社ノ規定ヲ準用スルコトヲ規定セルヲ以テ本章ニハ單ニ合資會社ニ特別ナル事項ヲノミ規定セリ

第五十條及ヒ第五十一條ニ於テ合名會社ノ定款事項及ヒ登記事項ヲ規定セリ各社員ノ氏名住所モ亦此事項ノ一ナリ而シテ合資會社ノ社員ハ有限責任ヲ負フ者ト無限責任ヲ負フ者トノ二種アルヲ以テ何ノ誰カ無限責任ヲ負ヒ又何ノ誰カ有限責任ヲ負フコトヲモ定款ニ記載セシムルナリ(第一〇六條從テ又之ヲ登記セシムルナリ(第一〇七條))

合名會社々員ハ民法ノ組合員ノ如ク勞務ヲ以テ出資ト爲スコトヲ得是レ組合員又ハ合名會社員ハ其全財産ヲ以テ責任ヲ負フ者ニシテ第三者カ組合又ハ會社ニ對シテ與フル信用ハ社員又ハ組合員ノ出資ニ非スシテ全財産ナリ故ニ其出資ハ必スシモ一定ノ財産ナルコトヲ要セスト雖モ合資會社ノ有限責任社員ニ在リテハ之ニ反シテ其出資以外ニ責任ヲ負ハサル者ナルヲ以テ其出資額ハ現實ノ財産ナラシムルコトヲ要ス但シ必スシモ金錢ナルコトヲ要セス(第一〇八條)

合名會社々員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セ
 (第五六條)又各自會社ヲ代表スル權限アリ(第六二條其合名會社ニ在リテハ各社
 員皆全財産ヲ以テ會社債務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ其權限モ亦平等ナルヲ
 原則トセルナリ合資會社ニ在リテハ一部ノ社員ハ其責任出資ニ限ルヲ以テ之
 ニ無限責任社員ト同等ノ權限ヲ與フルハ却テ公平ヲ失スルナリ故ニ業務執行
 權ト會社代表權トハ之ヲ無限責任社員ニ限レリ第一一九條第一一四條第一一
 五條)

有限責任社員ト雖モ其出資ノ割合ニ從テ會社ノ損益ヲ分擔スルモノナルヲ以
 テ業務執行權又ハ會社代表權ハ之ヲ與フヘカラストスルモ之ヲ以テ時々會社
 ノ業務ノ狀況ヲ知ラシムルノ要アリ故ニ第十一條ニ於テ各營業年度ノ終ニ
 於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ閱覽シ且會社ノ業務
 及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得セシメ又重要ナル事由アルトキハ裁
 判所ハ其請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ノ檢査ヲ許ス
 ヘキコトヲ規定セリ

合名會社々員ハ他ノ社員總體ノ承諾アルニ非サレハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ
 他人ニ讓渡スコトヲ得ス蓋シ合名會社々員ハ皆無限責任ヲ負フモノナルヲ以
 テ其社員ノ變更ハ他ノ社員ノ利害ニ關スルコト極メテ大ナリ故ニ各社員ニ持
 分ノ讓渡ニ不承諾ヲ唱フル權利ヲ認メタリト雖モ合資會社ノ有限責任社員ノ
 持分ノ讓渡ニ關シテハ他ノ有限責任社員ニ此不承諾ヲ唱フル權利ヲ賦與スル
 必要ナシ何トナレハ有限責任社員ハ其責任出資ニ限ルヲ以テ他ノ有限責任社
 員ノ變更ニ關シテ利害ヲ感スルコト極メテ薄クレハナリ之ニ反シテ無限責任
 社員ノ變更ニ關シテハ有限責任社員ニモ亦不承諾ヲ唱フル權利ヲ與ヘサルヘ
 カラス蓋シ有限責任社員カ一定ノ出資ヲ爲シテ業務ノ執行ヲ全然無限責任社
 員ニ一任スルハ其無限責任社員ヲ信スルコト厚ケレハナリ故ニ無限責任社員
 ノ持分ノ讓渡ニ關シテハ第五五條ニ依リ第五九條ヲ準用シ有限責任社員ノ
 持分ノ讓渡ニ關シテハ特ニ第一百十二條ノ規定アルナリ
 第六十五條ニ曰ク社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリ
 タルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フト此規定ハ

合資會社ニ準用セラル、コト明ナリ然レトモ合資會社ニ在リテハ此他ニ猶ホ
有限責任社員カ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタル場合ニ
ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負ハシムルコトヲ要ス
(第一一六條)
無限責任社員ハ人的信用ヲ以テ立ツモノナルヲ以テ其死亡セル場合ニ其相續
人ヲシテ當然之ニ代ハラシムルコト能ハサルナリ然レトモ有限責任社員ニ在
リテハ其責任出資ニ止マルヲ以テ人ノ交替ハ會社ノ利害ニ關スルコト薄シ故
ニ其死亡セル場合ニハ相續人ヲシテ之ニ代ハリテ社員ト爲ラシムルハ單ニ弊
害ナキノミナラス甚タ便利ナルモノアリ又禁治産ハ無限責任社員ニ在リテハ
退社原因ナリ是レ無限責任社員ハ其責任無限ニシテ又業務執行ノ權利アリ義
務アル者ナルヲ以テ行爲能力ヲ喪失セル場合ニハ退社セシムルコト双方ノタ
メ便利ナリト雖モ有限責任社員ハ自ラ業務ヲ執行スル權限ナキヲ以テ禁治産
者ト爲ルモ必スシモ以テ退社セシムルニ及ハサルナリ第一一七條尤モ此規定
ハ命令規定ニ非ス

合資會社ハ無限責任社員ト有限責任社員トヲ以テ組織スルヲ特徴トス故ニ執
ルカ其一方カ全然退社セテ缺乏セルトキハ合資會社ハ解散ス然レトモ有限責
任社員缺乏シテ無限責任社員ノミト爲レル場合ニ在リテハ合名會社ト區別ス
ル所ナシ故ニ若シ總員ノ一致アルトキハ合名會社トシテ存續スルコトヲ許ス
ナリ此場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テ
ハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲サシムルナリ第一一八
條

第四章 株式會社

株式會社ノ設立ヲ説明スルニ先チ一言スヘキコトアリ
株式會社モ亦商會社ノ一ナリ株式會社ノ特色トスル所ハ其資本ヲ株式ニ分
割スルニ在リ其資本ノ全部カ株式ニ分タルノ點ニ於テ彼ノ株式合資會社ナル
モノト異レリ此ニ資本ト云ヘルハ會社ノ財産ノ謂ニアラスシテ損益計算ノ基
礎ト爲ルヘキ基本財産トモ稱スヘキモノナリ會社ノ財産ト云フトキハ現ニ會
社カ有スル總テノ財産ヲ指スカ故ニ會社カ營業上利益ヲ得タル時ハ會社ノ財

產ハ資本ヨリ大ナルヘク又損失ヲ生シタル場合ニ於テハ其財産ハ資本ヨリ少カラサルヲ得スト雖モ會社ノ資本ハ一定不動ノモノニシテ増資又ハ減資ノ手續ニ依ルニアラサレハ之ヲ増減スルコトヲ得ス即チ財産トハ全ク別物ニシテ財産ノ増減ニ因リテ資本ノ増減ヲ來スコトナシ

此資本ハ總テ均一ナル株式ニ分割セサルヘカラス(第一四三條株式ノ金額ハ株主即チ株式會社ノ社員ノ出資ノ單位ナリ尙ホ株式ノ事ニ付テハ第二節ニ至リ詳説スルコトアルヘシ)

株主ノ責任ハ株式ニ因リテ一定シ如何ナル場合ト雖モ株式金額ノ外ニ會社又ハ第三者ニ對シテ毫モ責任ヲ負フコトナシ即チ他ノ會社例ヘハ合名會社ニ在リテハ出資額ノ外自己ノ全財産ヲ以テ會社ノ義務ニ對シ其責任ヲ負ハサルヘカラスト雖モ株式會社ノ株主ハ自己ノ出資額即チ株式ノ外更ニ責任ヲ負フコトナシ

株式會社カ經濟上極メテ必要ノモノタルコトハ更ニ言フヲ待タス今其理由ノ一端ヲ示サンニ株式會社ハ資本ヲ多數ノ株式ニ分割シ多人數ノ手ヨリ之ヲ集

ムルヲ以テ零碎ナル資本ヲ集合シテ之ヲ大事業ニ利用スルコトヲ得ヘシ是レ國家ノ經濟上ヨリ考フルモ個人ノ經濟上ヨリ見ルモ極メテ有益ナルモノナリ又其事業カ偶々失敗シテ損失ヲ蒙ル場合ニ於テモ其損失ヲ多人數ノ上ニ分配スルカ故ニ之カ爲メ個人ノ資産ヲ蕩盡スルカ如キ危險ナク又其株主ノ身上ノ信用ヲ基礎トシタル團結ニ非サルカ故ニ株主タル個人ノ異動又ハ其財産上ノ地位ノ變動ハ會社ノ存立ニ影響ヲ及ホスコトナシ

然レトモ一利害相伴フハ事物ノ數ニ於テ免レサル所ナリ株式會社ノ利用ハ前述ノ如ク大ナリト雖モ其弊害モ亦極メテ大ナリ其弊害ノ著シキモノハ所謂株式詐偽ナリ即チ株式會社ヲ設立シ其事業ノ將來ヲ極メテ有望ナルモノハ如クニ鼓吹シ株式或ハ權利株式ヲ購置セシメ之ヲ賣リ以テ巨利ヲ博スル如キ是ナリ其發起人ハ會社事業ニ因リテ利益ヲ得ル目的ヲ以テ會社ヲ發起スルニ非スシテ株式ヲ賣却スル目的ヲ以テ會社ヲ設立セント欲スルナリ方今各地方ニ在リテ委微振ハサル多數ノ株式會社中此種發起人ノ投機企圖ニ成リシモノ少カラサルヘシ此他發起人カ發起費用トシテ多大ナル金錢ヲ攫取スルカ如キ

又取締役カ會社事業ニ利害ノ念ヲ有スルコト薄クシテ甚タシキハ會社事業ニ依リテ私利ヲ營ムカ如キ株式會社ニ伴フ弊害枚舉ニ遑アラサルナリ是ヲ以テ各國ノ法制ハ區々ナリト雖モ要スルニ株式會社ノ弊害ヲ矯正スル精神ヲ以テ規定ヲ設クルハ一ナリ

我舊商法ハ株式會社ヲ設立スルニハ政府ノ免許ヲ受クヘキコトヲ規定セリ我舊商法ノ下ニ於テ株式會社ヲ設立スルニ發起人ハ先ツ發起ノ認可ヲ受ケテ發起手續ヲ完了シ更ニ設立ノ免許ヲ得サルヘカラス然ルニ新商法ニ於テハ此主義ヲ排斥シテ自由設立主義ヲ採用セリ蓋シ免許主義ヲ探ルモ政府カ設立ヲ許可スル理由ハ單ニ商法ニ規定セル設立手續ニ違反スルコトナキヤ否ヤニ在リトスレハ之ヲ利害關係者ノ自衛ニ放任スルモ可ナリ又其目的ノ不法ナラサルヤ公安秩序ニ妨ケナキヤ否ヤニ在リトスレハ之ヲ司法ノ手ニ一任スルモ可ナリ若シ夫レ之ヲ社會經濟ノ狀態ヨリ觀察シテ會社事業ノ消長ヲ考察シ又ハ其事業ノ前途ヲ揣摩シテ以テ許可ヲ決セシムル趣旨ナリトモハ其趣旨ハ到底之ヲ貫徹スルコト能ハサル虞アルノミナラヌ政府ノ免許ハ偶々政府カ其會社

ノ信用ヲ保證スルカ如キ結果ヲ生スルヲ以テ管ニ無益ナルノミナラス却テ弊害ヲ生スルノ恐ナリトモス故ニ會社ノ盛衰興亡ハ一ニ之ヲ經濟社會ノ實勢ニ委附シテ法律ハ唯株主ト債權者トヲ救済スルカ爲メニ十分ナル保護規定ヲ設ケ以テ彼等ヲシテ自衛セシムルナリ是レ新商法ニ於テ自由設立主義ヲ採用スルト同時ニ株式會社ノ章ニ於テ多數ノ嚴密ナル命令規定ヲ設定セシ所以ナリ

第一節 會社ノ設立

會社ノ設立事務ヲ第一ニ取扱フヘキ者ハ發起人ナリトス發起人ハ七人以上ナルコトヲ要ス舊商法ニ於テハ株式會社ハ少クトモ株主七人以上アルコトヲ必要トシ其發起人ハ四人以上ナルヲ以テ足レリトモセシモ新商法ニ於テハ發起人ノ數モ亦七人以上ナルコトヲ要スト規定セリ

發起人ノ事務ハ第一定款ヲ作成スルコト第二株式引受人ヲ定ムルコト第三株主總會ヲ招集スルコト是ナリ

第一 定款ノ作成

定款ハ會社即チ法人ノ組織及ヒ其行動ノ法則ヲ規定スルモノナルヲ以テ法令ノ範圍内ニ於テ各會社隨意ニ之カ規定ヲ設クヘシト雖モ一定ノ事項ハ必ス之ヲ定款ニ規定セシメサルヘカラサルモノアルカ故ニ法律ハ定款事項ヲ定ムルナリ(第一二〇條)舊商法ハ目論見書事項ヲ規定セルモ定款事項ヲ規定セザリシカ新商法ハ目論見書ノ規定ヲ削除セシメミナラス舊商法ノ所謂目論見書事項ノ多クハ先ツ定款ニ於テ定メサルヘカラサル事項トセリ

第二百二十條ニ規定セル定款事項ハ左ノ如シ

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

六 本店及ヒ支店ノ所在地

七 會社カ公告ヲ爲ス方法

八 發起人ノ氏名住所

右ノ事項中第一號乃至第四號及ヒ第八號ノ事項ハ必ス發起人ニ於テ之カ記載ヲ爲サ、ルヘカラスト雖モ第五號乃至第七號ノ事項ハ性質上必ス發起人カ之ヲ定メサルヘカラサルニ非ス場合ニ依リテハ却テ總會ニ於テ之ヲ定ムルヲ便トスルコトアルヘキヲ以テ發起人ハ之ヲ定メスヅテ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得ルナリ但シ此總會ハ定款事項ヲ定ムルモノナルモノナルヲ以テ定款變更ノ場合ト同様ナル手續ニ依ラサルヘカラスト(第一二一條)

第二百二十條ニ掲ケタル事項ハ會社カ必ス之ヲ定メサルヘカラサル事項ナリ此他會社カ必ス定メサルヘカラサルニ非サルモ若シ之ヲ定メシト欲セハ必ス定款ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラサル事項アリ第二百二十二條ニ掲ケタル事項是ナリ

一 存立時期又ハ解散ノ事由

二 株式ノ額面以上ノ發行

商法會社

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名

四 金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名其財産ノ種類價格及

ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

凡ソ此等ノ事項ハ必ス定メサルヘカラサルニ非ス然レトモ若シ之ヲ定メント

欲セハ必ス定款ヲ以テセサルヘカラスト云フナリ特ニ第三號乃至第五號ノ事

項ノ如キハ發起人カ往々由テ以テ不當ノ利得ヲ試ミントスル所ナルヲ以テ豫

メ之ヲ定款ニ記載シテ公定セムルナリ

發起人ハ第二百二十條及ヒ第二百二十二條ノ趣旨ニ從テ定款ヲ作り之ニ署名スル

コトヲ要ス署名ハ定款ノ必要條件ニシテ之ナクシテ定款タル効力ナキナリ

舊商法ハ定款ハ創業總會ニ於テ確定スルモノトシ發起人カ作成スル所ノモノ

ヲ假定款ト稱シタリ新商法ハ始ヨリ之ヲ定款ト稱シテ發起人ニ由リテ定款

確定ス然レトモ新舊兩法ノ規定ハ之ヲ實際ニ適用スレハ結果ハ同一ナリ何

ナレハ定款ヲ創業總會ニ於テ變更スルコトヲ得ルヲ以テナリ

第二 株式ノ引受

株式ノ引受ニ二種アリ一ハ發起人ノ引受ナリ他ハ申込ニ因ル引受ナリ發起人

カ株式ノ全部ヲ引受タルトキハ會社ハ株式ノ引受ノ完了ト同時ニ成立ス發起

人カ株式ノ全部ヲ引受ケサルトキハ發起人ハ株主ヲ募集ス此場合ニ於テハ會

社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

一 發起人カ株式ノ總數ヲ引受タルトキハ會社ハ株式ノ引受ヲ以テ成立シ各

發起人ハ其引受ケタル株式ニ付キ直ニ四分ノ一ノ拂込ヲ爲サハヘカラスト又

取締役監査役ノ選任ヲ爲サハヘカラスト此選任ヲ決スルニハ議決權ノ過半數

ヲ要スルナリ(第一二三條)

斯クテ選任セラレタル取締役ハ檢査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求ス蓋シ此場合ニ

於テハ會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受タルニ因リテ成立スルヲ以テ會社設

立ノ手續ハ一切少數ナル發起人ノ手ニ在リ而シテ彼等ヨリ選任セラレタル取

締役モ亦發起人ナルヲ以テ發起手續中如何ナル不正ノ行爲アルトモ之ヲ隠秘

スルコトヲ得テ第三者ハ其内情ヲ窺ヒ得サル虞アルヲ以テ法律ハ特ニ檢査役

ノ選任ヲ申請セザルハナリ検査役ノ職務ハ第二百二十二條第三號乃至第五號ニ
掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査スルニ在リ
第二百二十二條第三號乃至第五號ノ事項ハ發起人カ受クヘキ特別利益金錢以外
ノ出資設立費用及ヒ發起人ノ報酬等ニシテ皆往々發起人カ由テ以テ不當ノ利益
ヲ分得シテ會社ノ財産上ノ地位ヲ危險ナラシムル所ノモノナリ又第一回ノ拂
込ノ如キモ或ハ現實ノ拂込ヲ爲サスシテ世人ヲ欺瞞スル者アリ故ニ検査役ヲ
選任シテ此等ノ點ヲ精査シテ報告セシメ其報告ニ由リ裁判所ハ第二百二十二條
第三號乃至第五號ノ事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得ルコ
ト第三百三十五條ノ場合ニ於ケル創立總會ノ權限ト同シ(第一二四條)
ル發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ノ募集ヲ爲サ、ルヘカラス
(第一二五條)
株主ヲ募集スルニハ發起人ハ株式申込證ヲ作ラサルヘカラス株式申込證ニハ
左ノ事項ヲ記載スヘシ(第一二六條)
一 定款作成ノ年月日

第三節 國債ヲ課稅物件ト爲スノ可否

國債ノ移轉及ヒ所得ニ對シ租稅ヲ課スルノ可否ハ從來學說實際共ニ區々ニ岐
レ現時ニ於テハ課稅說一般ニ多數ヲ占ムルモ其移轉及ヒ所得共ニ課稅ス可キ
ヤ又外人所有ノ國債ニ對シテ課稅ス可キヤニ至リテハ未タ歸一スル所ナシ
非課稅論者ノ論據トスル要點ハ凡ソ次ノ四點ニ歸着スルモノ、如シ

第一 國債ノ課稅ハ政府ノ信用ヲ害ス

第二 債務者カ債權者ニ對シ其債權ニ付キ課稅スルハ條理ニ反スルモノ
ナリ

第三 國債ノ課稅ハ其價格ノ下落ヲ來シ結局政府ノ損失ヲ來スモノナ
リ

第四 國債ノ賦課ハ他ノ動産ニ課稅スルヨリモ遙ニ困難ナリ

第一及ヒ第二ノ論點ハ根本ニ於テ誤謬ニ陷レル僻見ナレトモ佛國等ニ於テハ
古來ヨリ所謂國債借換反對ト同一ノ觀念ニ支配セラレ屬課稅ノ問題起リシニ
拘ハラズ近時ニ至ルモテ賦課セラレサリシ點ニシテ北米合衆國ニ於テ猶ホ國

債ノ募集ニ際シ此カ免税ヲ特約スルカ如キ吾人ノ屬見ル所ナリ蓋シ課税ノ目的ハ政府ノ收入ニ在ルモ之カ賦課ノ原則ハ各自ノ納税力ニ公平ニ且平等ヲ期スルニアリ而レテ通常如何ナル租税ト雖モ時ト所ト因リ皆多少ノ不公平ヲ免ルコト能ハス常ニ之カ公平ヲ期センカ爲メ修正ヲ試ムルハ各國實例ノ證スル所ニシテ此際獨リ政府カ國債ノ所有者ニ限リ之カ免除ヲ爲スカ如キハ故意ニ不公平ヲ作爲スルモノニシテ實ニ反スルノミナラス又政府ノ信用ヲ害スルモノト云ハスンハ非ス如何トナレハ國債ノ募集ニ於テハ國家ハ私法上ノ國庫トシテ債務關係ニ立ツモノナレトモ租税其モノハ國家カ公法上ノ主體トシテ公平平等ニ貸財ノ徵收ヲ命スルモノナレハナリ其收入ノ性質ニ於テ其主體ノ性格ニ於テ二者割然タル軋域ヲ有シ互ニ相關與スルコトヲ許サハルモノナリ國債ノ債主タルカ故ニ之カ免税ヲ爲スハ特定人間ノ私法上ノ關係ヲ以テ一般臣民ニ對スル租税ノ賦課ヲ左右セントスルモノニシテ第一第二共ニ事ニ反對ノ論結ヲ爲スキモノト云ハスンハ非ス

第二ノ論點ハ第一第二ニ比スレハ比較的根據アル說ナリト雖トモ(第一租税ハ

單ニ國債ニノミ課賦スルモノニ非スシテ他ノ財産ニ對シテモ等シク賦課スキモノナルヲ以テ國債ノ利益ノ増減ハ同時ニ他ノ財産ヨリ得ル收入ノ増減ト相伴フモノニシテ國債ニ限リテ賦課ノ爲メ之カ價格ノ下落ヲ來スノ理ナク第二國債ノ賦課ハ間接ニ一種ノ利率ノ變更ト見ル可キモノニシテ條理上強テ利子ヲ引下ケテ一方ニ賦課ヲ免除ス可キ理ナシ彼ノ伊太利ニ於テ千八百六十四年以來國債ノ價格上騰シ而モ其年ヨリ財政ノ困難ニ迫ラレ一割二分三厘ノ重税ヲ課シタルカ如キ實例ハ又第三論點ノ辭論ナルヲ證スルニ餘アリト謂フ可シ

第四ノ論點ハ余ハ國債其モノ、移轉ニ付キ課税スル場合ニハ非賦課論者ニ左祖スルモノナリ是レ千八百七十一年佛蘭西議會ニ於テ提出セラレ大多數ヲ以テ否認セラレシモノナリ蓋シ利子又ハ割賦ヲ生スル證書ノ賣買ニ租税ヲ賦課スルハ之ヲ他ノ動産ニ賦課スルヨリモ遙ニ困難ナルモノニシテ殊ニ國債ニハ記名無記名ノ別アルカ故ニ記名證書ノ場合ニハ之カ不便ヲ感スルコト尠キモ無記名證書ノ場合ニ至リテハ法律上動産ト同視シ此カ賣買讓與ノ便宜ヲ計

リシモノナルヲ以テ事實其移轉アル毎ニ一定ノ賦課ヲ爲サント不能ニ屬スルモノナレハナリ之ヲ要スルニ國債ノ移轉ニ賦課スルハ現時國債カ金融界ニ於ケル特種ノ機能ヲ減却スルニ等シク率テ國債其モノ、價格ノ暴落ヲ來シ之カ効用ヲ失ハシムルモノト言フヲ憚ラサルナリ

國債ノ所得ニ賦課スルハ條理ニ適合シ而モ又困難ヲ感スルコト極メテ夥シ殊ニ英國ノ如ク所得稅トシテ其利子支拂ニ際シ稅額ヲ差引クハ最も簡便ニシテ且隱蔽遁脫ノ患ナク最も公平ヲ期スルニ易キモノト云ハスンハ非サルナ

終リニ臨ミ外國人ノ有スル國債ノ所得ニ對シ課稅スルノ可否ヲ一言ス可シ外國人ハ我治下ニ在ル者ニ非ス故ニ之ニ國內ノ政費ヲ負擔セシムルハ條理ニ悖戾セルモノニシテ此ニ課稅センニハ條約ニ依ルコトヲ要ス可ク又此ノ如キ條約ハ事實締結セラル、コトナシトハ反對論者ノ論點トスル所ナリ此ニ對シテハ或ハ外人ハ當初ヨリ一定ノ賦課率ヲ除キタル利率ニテ之カ國債ノ募集ニ應シ之カ國債ヲ購入シタルモノナルカ故ニ之ニ賦課スルハ不可ナル所ナシト

論シ或ハ外人ニ支拂フ利子ハ正貨ナルヲ以テ利子ノ免除ニ加フルニ正貨ト紙幣ノ差異ニ因ル打歩ヲ外人ニ利セシムルハ不得策ナルノミナラス內國人ヲシテ脫稅ノ途ヲ開クモノナリト論シ消極論者ハ又國債ト租稅トハ公私全ク相異ナルモノナルカ故ニ國債ノ條件ヲ承諾シテ募集ニ應シ又ハ購入ナシタル外國人ニ對シ租稅ヲ賦課スルハ違法ナリトシ又伊太利等ノ實例ヲ引證シテ內國人ハ其手數經費ノ大ナルカ爲メ積極論者ノ論スルカ如キ脫稅ノ患ナキノミナラス事實却テ外國人ノ手ヨリ內國人ノ手ニ吸收セラる、モノナリト駁論スル等學說實際區々ニ岐レテ歸一スル所ナキモ余ハ本問題ノ如キ國際法上尤モ簡單ナル問題ナリトス消極論者ト雖モ外國人カ其資産營業又ハ職業ニ依ル所得ハ其本店所在地ノ法律ニ從ヒ所得稅ヲ納付スルヲ原則ト爲スコトヲ拒ムコト克ハサル可シ是レ其所得ヲ得ル所以ノモノハ主トシテ其本店所在地ニ基クカ故ニ外ナラス今一國ノ國債ニ於テ其利子ヲ支拂ヒテ一定ノ所得ヲ與フル所以ノモノハ一ニ其國債ヲ發行セル國家ノ行動ニ基クモノタル以上ハ國債ノ所得ニ賦課スルコトニ對シ根本ヨリ非難スルニ非スンハ其國債ノ所有者ノ內國人タ

ルト外國人タルト其國債ノ内地ニ存在スルト否トニ由リ此カ所得税ニ限リテ賦課ノ有無ヲ別ツノ理由ヲ見サルモノナリ我邦ニ於テハ明治三十二年二月法律第十七號ニ依レハ第三條ニ於テ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ナルモノヲ第二種トシテ其支拂ヲ受ケシ金額ヲ標準トシテ第三種ト等シク同一ノ所得税ヲ賦課スルコト、爲セシハ余ノ所説ト全ク相合致スルモノナリト信ス

第七章 國債ノ償還

第一節 緒論

國債ノ償還ハ國債ノ種類ノ異同ニ由リテ其用語ヲ異ニスルヲ例トス特定人ニ對スル場合即チ契約國債等ニ在リテハ支拂ト稱シ紙幣ニ對スル場合ニハ償却ト稱シ所謂償還ナル用語ハ確定國債ニ對スル場合ニ借用セラル、所ノモノナリ而シテ此等ノ償還ニ在リテ唯紙幣ノ償却ハ少シク他ト其趣ヲ異ニシ一般ニ國債ノ償還ハ之ヲ後ニシ租税ノ輕減ハ之ヲ先ニスルヲ原則ト爲スニ拘ハラス其紙幣タル特性ニ因リ金融市場ノ狀況ニ照シ荷モ濫發ノ傾向ヲ有スルトキハ租

税ノ輕減ニ先チテ仍ホ之カ償却ニ勉ム可キコトハ疑ニ間接強制國債ノ下ニ論述セシ所ニシテ本章ニ於テハ紙幣以外ノ國債主トシテ確定國債ノ償還ニ就テ之ヲ論述スルモノナリトス

亞米利加合衆國カ南北戰爭ノ永續セルニ由リ紙幣ヲ發行シ國債ヲ募集シ又重税ヲ課スルニ至リ戰後財政ノ困難ハ直チニ之カ整理ヲ爲サ、ルヲ得サルニ至レリ殊ニ紙幣ノ増發ハ物價ノ暴騰ヲ來シ金融市場ノ變動ハ經濟界ニ重大ナル禍言ヲ及ホセシヲ以テ先ツ紙幣ノ償却ヲ先ニシテ經濟界ノ恢復ヲ企圖ス可キニ租税ノ輕減ヲ先ニセル爲メ紙幣濫發ノ災殃ヲ長カラシメシハ當該政府ノ財政上ノ失策トシテ一般ニ認メラル、所ナリ

國債ノ償還ハ必ス一定ノ順序方法ニ依リテ債務カ辨濟セラル、コトヲ意味スルモノニシテ合法ナル可キコト固ヨリ言ヲ俟タス故ニ前章ニ於テ述ヘタルカ如ク政府カ強制シテ不法ニ債務ヲ取消シ又ハ其元金ノ變更ヲ爲スカ如キハ之ヲ償還ト云フ能ハサルノミナラス豫メ一定セル順序方法ニ依ラスシテ支拂ヒシ場合又ハ豫メ償還ニ關スル順序方法ヲ一定スルコトナク不意ニ或ハ急激ニ

償還セル場合ノ如キ又正當ナル償還ト云フ能ハス蓋シ政府ノ義務ハ重大ニシ
テ此カ信用ヲ扶持センカ爲メ償還ニ關シテハ一定ノ順序方法ヲ定メ以テ債權
者ニ對シテ國債ノ確實安全ヲ保障スルハ國債其モノ、性質上當然ノ事理ニ屬
スルモノアレハナリ

國債ノ償還方法ハ之ヲ二様ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルコトヲ得可シ一ハ其國債
ノ條件ヨリ觀タル主觀的觀察ニシテ一ハ其國債償還ノ資金ヨリ觀タル客觀的
觀察ナリ後者ハ別ニ本章第四節國債償還ノ方法ノ下ニ於テ之ヲ論述ス可キヲ
以テ茲ニハ前者ニ付キ一言スル所アル可シ

國債償還資金カ又國債ノ條件トシテ認メラレタル例證シト爲サ、レトモ
國家信用ノ發達セル今日ニ於テハ之ヲ國債ノ條件ト認メサルヲ原則ト爲
スヲ以テ共ニ第四節ニ於テ論述スルハ敢テ妨ケアリト爲スニ非ズレトモ
便宜上前者ニ就テハ茲ニ一言スルコト、爲セリ

國債ノ條件ヨリ國債ノ償還方法ニ付キ觀察スレハ通常二様ノ分類ヲ爲スコト
ヲ得可シ

第一 償還期限ノ一定セラル、ヤ否ヤニ由リテ分類セル、隨意償還法及ヒ義務
償還法

第二 國債額面ノ全部ヲ償還スルヤ否ヤニ由リテ分類セル額面全部償還法及
ヒ額面一部償還法

第一ノ分類ハ既ニ國債ノ分類及ヒ國債ノ管理ノ二章ニ於テ講述セル所ニシテ
財政上國債ノ目的ハ收支ノ適合ニ在リテ財政ノ負擔ヲ増加シ不便不利ヲ來ス
ニ非サル以上ハ政府カ財政ノ緩急ニ拘ハラス義務ノ履行ニ牽束セラレ一方ニ
ハ財政整理ノ爲メ借換其他ノ管理ヲ阻碍シテ償還期限ヲ一定セラル、コトノ
不可ナルコト論ナク近時學說實際共ニ隨意償還法ニ一致シ有期隨時支拂國債
永遠國債等最モ盛ニ行ハル、ニ至レリ

第二ノ分類モ年々一定ノ元金ヲ償還スルニ際シ各額面ニ按分シテ各其一部ニ
付キ償還スルハ一見公平ニシテ且穩當ナルカ如キモ債務者ハ非常ノ手數ヲ増
シ債權者ハ又各其額面ノ一部ヲ受クルニ止マルヲ以テ之カ生産的利用ノ便宜
ヲ失フ可キヲ以テ抽籤又ハ番號ヲ以テ額面全部ヲ一部ニ對シテ償還スルコト

當事者双方ノ便宜トスル所ニシテ學說實際共ニ又一致スル所ナリ

第三節 國債償還ノ可否

國債バ當初私人間ノ債務ト同一視セラレテ國債ノ償還ハ常ニ政治家ノ唱道スル所ト爲リ財政家ノ留意スル所ト爲リ一方ニ於テハ國債ノ消滅ニ全力ヲ盡スニ拘ハラス一方ニ於テハ國債ハ漸次累積シテ益々遞増ヲ見ルニ至リ今日ニ於テハ國家信用ノ發達ハ國債ノ償還ヲ以テ必要ナル問題トシテ認ムルコト無ク又事實之カ消滅ハ不能ニ屬スルモノト看做サルハニ至レリ是レハ國債ノ償還ハ國庫ノ負擔ヲ減少スルニ在ルカ故ニ國債管理ノ發達ニ伴ヒテ償還ニ依ラスセテ此カ負擔ヲ輕減スルコトヲ得一ハ國債償還ニ急ナルノ餘重稅ヲ賦課スルカ如キハ却テ其弊害ヲ助長スルモノタルコト明カナルニ至リセニ歸因スルモノナリ而シテ現時ニ於テハ米國英吉利和蘭等ヲ除キ歐米各國及ヒ其文化ニ沿及セル東洋南米ノ諸國等ニ在リテハ一般ニ元金ノ償還ニ重キヲ置カス殊ニ近時永遠國債ノ發達ト共ニ國債ノ償還其モノニ反對ヲ試ミル者相繼テ續出スルニ至レリ此等ノ論者ト雖モ固ヨリ絕對ニ國債ハ償還ス可キモノニ非スト云フニ非

ス今所說ヲ分類摘示スレハ大要次ノ如シ

消極論者ノ學說ヲ大別スレハ之ヲ樂天主義ト厭世主義ト二者ト爲スコトヲ得可シ

厭世派ノ消極論ハ近時各國ニ於ケル國債ハ漸次累積シテ尠モ減少スル所ナク殊ニ隨時償還國債ノ發達ニ伴ヒ益々遞増セテ又停止スル所ヲ知ラス其弊遂ニ國債ニ對スル人民ノ負擔苛重ニ失スルヲ以テ此際國債ノ額ヲ減シ國庫ノ負擔ヲ減セントスレハ之ヲ特種ノ方便ニ訴ヘスンハ非ス故ニ或一定ノ期間ヲ定メテ政府ノ國債ニ對シ消滅時効ノ制ヲ定ムルヲ可トス是レ近時各國ニ於テ私設ノ公共事業ニ對シ一定ノ營業期限ヲ以テ政府ノ所有ニ遷スト同一ノ筆法ニ出ルモノナリト然レトモ此說ハ一方ニ於テ私設ノ公共事業ヲ無償ニテ官有ト爲スニハ或保護補給ヲ認ムルカ如ク國債ノ利子歩合ヲ高クスル等多少ノ利益ヲ債權者ニ與フルコトヲ要シ結局其需要ト供給ハ一種ノ年金國債ト爲リテ決定サルハモノト云ハスンハ非ス單ニ在來ノ國債ニノミ不法ノ取消ヲ爲スハ實ニ不正ノ惡法タルノミナラス一時姑息ノ手段タル以上ハ當初ヨリ消滅時効ノ制ヲ

定ムルノ愚ハ寧ロ年金國債ノ不便ヲ忍フノ勝レルニ如カサルナリ
樂天派ノ消極論ハ亦之カ論點ヲ二分スルコトヲ得可シ一ハ正貨ノ價格減少ヲ
論據トスルモノニシテ一ハ國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲スモノナリ其ニ元金
ノ償却ニ依ラスシテ國民ノ負擔ヲ減少セント欲スルニ於テハ一ナリ
正貨ノ價格ノ下落ヲ論據ト爲ス說ハ貨幣ノ供給絶エス遞増シ來リ且信用發達
ハ貨幣ノ代用ヲ爲ス信用證券ノ類ヲ増シ一方ニハ學術上ノ發見發明年ニ其多
キヲ加ヘ生産分配ノ費用ヲ節省スルヲ得ルニ至リシテ以テ貨幣ノ使用ヲ節省
シテ而モ貨幣其モノ、供給遞増シ永遠ノ後ニ於テ金銀鑛ノ耗盡シ去ルニ至ル
マテハ正貨ハ年ヲ逐フテ漸次下落イ趨勢ヲ呈スルハ爭フ可カラサル事實ナリ
トス故ニ貨幣ヲ以テ計算サル、國債ハ年ヲ逐フテ之ヲ償還スルニ易ク後世ノ
人民カ支拂フ負擔ハ前世ノ人民カ支拂フ同額ノ負擔ヨリ一層輕キモノト云ハ
スルハアラスト其所論固ヨリ一ノ事實問題ニシテ又敢テ非議ヲ容ル可キモノ
ニ非スト雖モ此論結ヨリシテ國債ノ償還ヲ永遠ナル可シト斷定スルニハ尙ホ其
年々減少スル負擔ノ率換言スレハ金利ノ歩合ノ低下ノ爲メ後世受クル所ノ利

益ハ之カ爲メ年々支拂フ利子ノ損失ヲ償フテ猶ホ剩リアルヤ否ヤヲ研究セズ
ンハ非ス而シテ吾人ハ此問題ニ對シテハ正貨下落ノ速度ハ緩慢ニシテ之ニ依
リ國債ノ負擔ヲ著シク輕減セシコトハ決シテ望ム可カラサルコトヲ信スル者
ナリ
〔ヘンリー・シブダムス氏ハ合衆國ニ於テ現時有スル國債ノ負擔ヲ著シク減
少センニハ毎年支拂フ利子ニ更ニ一分ノ十分ノ一ヲ加ヘ總テ其元金ヲ償
還シ得可キ歲月ヲ以テ猶ホ足ラサル可シト云ヘリ〕
國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲ス說ハ文化次第ニ發達シ國民ノ生産力益々遞増ス
ルト共ニ國債ノ負擔ハ事實ニ於テ輕減サル、ニ至ルモノナリ即チ國債額其
ノハ増減スル所ナキモ此ヲ負擔ス可キ人口ノ増加ト各自ノ富ノ増殖ハ其負擔
ニ付キ殆ト痛痒ヲ感セサルニ至ル可シト云フニ在リ是レ亦一ノ事實問題ニシ
テ毫モ非難ス可キ原由ヲ見ス
英國ニ在リテハ一千八百十五年ニ於テ國債利子ノ負擔ハ一國ノ總生産額
ノ一割五分ニ相當セシモ一千八百八十年ニ於テハ此割合僅ニ三分ニ減シ

タリ此負擔ノ減少ハ國債償還ノ結果ニ非スヤ國民ノ財力増進ノ結果ナ
ルカ故ニ假リニ國民ノ財力カ一千八百十五年ノ當時ト同一ナルモノト看
レハ國債ノ總額ニ於テハ少シク減少サレシモ猶ホ其三分ノ二ハ償還セラ
レタルモノト同一ノ結果ヲ生セルモノト云ハスヤハ非スヤ事實問題ニ
佛蘭西ニ在リテハ一千八百四十年ノ國債總額ハ八億五千萬弗ニシテ毎年
國庫ノ負擔ハ國民ノ總生産額ノ千分ノ二十二ニ當リ一千八百七十年ニ至
リテハ國債總額ハ二十七億五千萬弗ニ増加セシモ猶ホ千分ノ二十三ニ過
キス乃チ實際國債ノ總額ニ變更スル所ナシトスレハ一千八百七十年ニハ
漸ク千分ノ七ニ止マリシモノナリ一
「ルロア、ボリユー」氏ハ北米合衆國カ利率ノ低蕃財源ノ發達移民ノ流入入
口ノ増殖等異常ノ進歩ヲ爲シ人口ハ八千萬ヨリ一億ニ増加シ殆ト無限ノ
地域ヲ有スルニ拘ハラス國債ノ償還ニ勉ムルハ將來ノ輕微ノ負擔ヲ免レ
シカ爲メニ現在重大ナル苦痛ヲ甘ンヌルモノナリト云ヘリニ
然レトモ此ノ如ク國民ノ生産力カ國債ノ負擔ヲ減スルト共ニ國債其モノカ減

少スレハ尙ホ此カ負擔ヲ輕減ス可キハ固ヨリ言フ俟タサルカ故ニ消極論者ハ
嘗ニ此論點ニ一步ヲ進メテ國債ノ償還カ國民ノ生産力ノ發達ヲ阻碍スルカ又
ハ償還ヲ爲サ、ル時ヨリ生産力ノ發達鈍キコトヲ反證スルニ非スヤハ進ミテ
國債ノ償還ヲ反論スルヲ得サルモノナリトス而シテ、ヘンリー、アダムス氏ハ消
極論者モ反對シテ左ノ如ク言ヘリ
國債元金ノ償還ハ國民ヲ貧弱ナラシムルモノニ非ス又產業ノ發達ヲ阻碍
スルモノニ非ス之ニ反シテ若シ國債ノ元金ヲ存積シテ絶エス利子ノ支拂
ヲ持續スルトキハ如何ナル國民モ其生産力ヲ消磨セシムル傾向アリ
其所說大體ニ於テハ余カ一致スル所ナルヲ以テ余カ所說ヲ加味シテ其理由ヲ
簡單ニ説明スル所アル可シ蓋シ債務ニ伴フ損害苦痛ハ私人間ニ在リテハ辨濟
ノ際ニ在リト雖モ國家ハ私人ト相競争シテ對等ノ地位ニ立テ性質ヲ同シクシ
信用ヲ等シクスルモノニ非ス國債ノ發生消滅ハ只資本ノ移轉ニ在リ國家ノ上
ヨリ觀ルトキハ其實本ヲ最も生産的ニ活用セラレタル時ヲ以テ最も國家ノ產
業ニ利益アリトシ其資本カ何人ノ手ニ由リテ活用セラル、ヤハ問フ所ニ非ス

資本が政府ノ手ニ還ルモ其不生産的ニ消費セラル、コト渺シト爲サ、ルハ消費國債ナルモノカ國債ニ於テ寧ロ原則タルニ於テ之ヲ知ル可シ私人ノ手ニ償還セラレタル資本ハ又同一ニ決シテ不生産的ニ使用セラル、モノト斷言ス可カラサルノミナラス一般ニ信用ノ發達ニ伴ヒ生産的ニ活用セラル、モノナリトス是レ國民ノ生産力年々ノ遞増カ事實ニ於テ證スル所ナリ國債ノ産業上ニ及ホス弊害ハ之ヲ募集セル當時資本ヲ不生産的ニ消費セラル、場合ニ發生シ此消費サレタル資本ヲ恢復スル勤勞ハ實ニ國民カ荷フ可キ負擔ナリ國債元金ノ償還ニ至リテハ既ニ存在セル資本ノ所有權ノ移轉ニシテ以テ産業ノ盛衰ヲ付度ス可キモノニ非サルナリ尙ホ一步ヲ進メテ永久ニ一定ノ利率ヲ支給スルコトハ直接ニ生産事業ニ從事スルコトナク租税ノ收入ニ依リテ無爲ニ生活スル一種ノ階級ヲ造出スルモノニシテ一部階級ノ生産ノ發達ヲ障礙スルモノナリ是レアダムス民ノ國債ノ持續ハ却テ産業ノ進歩ヲ阻礙スト云フ理由ニシテ余ノ一致セサル所ナリ予ノ反對ハ極メテ簡單ナルモノニシテ事實問題トシテ國債ノ利子ノミニ依リテ生活ス

ル階級ハ極メテ少數ナルノミナラス所謂不生産的ノ階級ハ資本ノ所得ニ依リテ生活スルモノニ非スシテ他ニ巨多ノ人民ヲ見ルコトヲ得可マシ云フヲ以テ足レリトス況ヤ政府ハ無制限ニ財政ノ實力外ニ馳セテ現時非常ノ速度ヲ以テ増殖スル資本ヲ吸收スルモノニ非サルノミナラス其資金ハ再ヒ民間ニ下ル可キモノタルニ於テヤ

第三節 國債償還ノ時期

國債償還ノ可否ニ付キ前節論述シタル所ニ依リ所謂消極論者ノ主張スル所モ結局國債ハ全ク償還シ得可キモノニ非ス又縱令之ヲ償還スルニ十分ナル餘裕アルモノ之ヲ償還スルハ不可ナリト云フニ非スシテ國債ハ特ニ之カ償還ヲ急ニスルコトヲ要セス國債ノ償還ハ國債其モノ、要素ニ非スシテ之ヲ永遠ニ持續スルハ敢テ弊害ヲ助長スルモノニ非スシテ國債ノ償還ヲ急ニセハ却テ其弊害大ナリト云フニ過キス故ニ國債ノ償還ノ可否ノ問題ハ其實國債償還ノ時期ヲ論スルモノト看ルモ又敢テ不可ナルヲ見サルナリ

ルコトヲ要セスト論スル者ト二派ノ別ヲ生ス然レトモ此二説ハ固ヨリ時期ノ長短ヲ以テ之カ限界ヲ立ツルコト克ハス又限界ノ存ス可キモノニ非ス是レ國債其モノヲ絕對ニ觀察スルモ其元金ノ總額利子ノ歩合擔保ノ有無其國債元金ノ用途其他各種ノ體様ニ於テ其趣ヲ異ニスルノミナラス相對ニ觀察スルモ國家ノ信用金融ノ狀勢國債ノ歴史沿革其他各種ノ狀況ニ於テ其類ヲ異ニスルモノナレハナリ

國債ノ償還ヲ急ニス可シト爲ス說ハ凡ソ之ヲ次ノ三説ニ分ツコトヲ得可シ

第一 道德上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔ス可シ今世ノ勢力ノ結果貯蓄發見發明等ニ因リ利益ハ之ヲ後世ニ殘ス可キモ今世ノ過誤失策其他未タ辨濟セサル債務ヲ後世ニ貽スハ正義ニ反スルノ譏ヲ免レサルモノナリ

第二 政治上 一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔ス可シ國債ノ償還ノ有無カ債權者ニ及ホス可キ利害ハ姑ク之ヲ論セサルモ國家カ負債ノ所ノ債務ノ高ハ其國ノ財政ノ屈伸力ニ逆比例スルハ言ヲ俟タサル所ナリ國家カ最モ重視ス可キモノハ國家其モノノ生存問題ナリ國家カ一朝戰時事變ニ際シ在來巨

額ノ債務ヲ負擔スルカ爲メ新キ之ニ應スルノ資金ヲ得ルノ困難ハ政治上最モ忌ム可キ點ト謂ハスハ非ニ

第三 財政上 一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ負擔ス可シ政府カ財政上ニ意ヲ用ヒテ國債ノ償還ニ勉ムルトキハ財政ノ信用ヲ増加シ國債證書ノ價格ヲ高メ一般利子ノ歩合ヲ減少セ凡百ノ事業爲メニ發達伸張スルヲ得可ク一國ノ財政ヲシテ緩裕ナラシムルコトヲ得可シ

以上ノ所論ハ結局事實問題ニ由リテ之カ是非ヲ決定スルノ外ナキモノナレトモ大體ニ於テ政府ノ債務ヲ私人ノ債務ト同視セル辭見ト謂ハスハ非ニ第一何故ニ後世ニ負擔ヲ貽スハ不可ナルカ若シ今世カ前世及ヒ今世ノ負擔ヲ遺傳セテ而モ其ニ之カ利益ヲ殘サハルトキハ以テ道德上不可ナルヲ妨ケサルモ彼ノ戰事其他ノ事變ニ因リ一國ノ生存ノ爲メニ生ゼシ負擔ノ如キハ其國ノ臣民トシテ此カ負債ヲ分擔スルハ猶ホ非理ト謂フ可カラザルノミナラス此カ後世ニ傳フル所ノ利益ニシテ之カ負擔ニ超過スルトキハ其負擔ヲ受タルニト條理ニ協フモノト謂フ可キナリ

第二 政治上 既往債務ノ大小カ財政ノ屈伸力ヲ左右スル

ハ毫モ疑ナシ唯事實ニ於テ急遽ニ償還セントスル爲メ巨額ノ經費ノ節減又ハ巨額ノ收入ノ増加ヲ爲スニ由リテ生スル弊害ハ償還ヲ急ニセザリシ爲メ生ス可キ弊害ト孰レカ大ナルヤニ存ス若シ前者ハ常ニ伴フ弊害ニシテ後者ハ之カ弊害ノ發生ヲ必セサルノミナラス其弊害ノ程度亦輕キヲ例ト爲スヲ知レハ論者ノ害又事實ニ於テ妥當ナリト云フコトヲ得サル可シ第三、財政上利子ノ歩合ヲ減シ凡百ノ事業ノ發達ヲ來シ財政ノ緩急ヲ來スハ急激ナル國債ノ償還ニ依ル可キヤ蓋シ利子ノ歩合ノ高低ハ金融市場ノ複雜ナル現象ニ伴フテ左右セラレ唯リ國債ノ償還ニ依リテノミ之ヲ動カシ得ルニ非スシテ又此カ償還ノ期限ノ如何ハ毫モ關係スル所ニ非サルナリ

要之國債償還ノ時期ニ關スル問題ハ一々各個ノ國債ニ於テ時ト場所トニ依リ之カ事實問題ニ讓ラスハ非ス然レトモ其償還ノ期間ノ長期ニ亙ルコトハ大體ニ於テ利益多キモ弊害少キコト已ニ第二節ニ於テ上述セルカ如シ隨テ國債償還ノ時期ハ結局次ノ二原則ニ遵フヲ以テ最モ當ヲ得タルモノナリト信ス

第一、有害ノ租税ノ廢止ヲ先ニシ國債ノ償還ヲ後ニス可シ

第三者カ被保險者ニ損害ヲ被ラシメテ而シテ保險者カ之ヲ賠償シタル場合ニハ前述ト同一ノ理由ヲ以テ其賠償シタル限度ニ於テ保險者カ損害賠償ヲ第三者ニ請求スルコトヲ得ル所ノ第四百十六條ノ規定ハ商法修正案ニ於テハ之ヲ生命保險ニ準用スルコトニセシカ現行商法ハ之ヲ省キタリ立法者ノ意ハ生命保險ニ在リテハ保險者カ第三者ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ル爲メカ將又之ヲ準用セストモ民法ノ規定ニ據リ當然賠償ヲ請求スルコトヲ得トシタルカ爲メカ分明ナラスト雖モ生命保險事業計算ノ基礎ヨリスレハ保險者ハ通常豫メ是等ノ損害ニ對スル保險料ヲ受領シ居レルカ故ニ其賠償ヲ請求スルハ不當ナリ而モ民法ノ原則タル經濟ノ衝突ヲ見テ吾人ノ研究ヲ要スヘキ問題ト作爲セリ

第七節 保險契約ノ移轉

保險契約ハ曾テ述ヘタル如ク保險ニ付セラレタル物ニ附隨スルモノニアラスシテ其物ト之ヲ所有若クハ占有又ハ或關係ヲ有スル人トノ利益關係ニ就テ成立スルモノナルカ故ニ該物件カ被保險者ノ手ヲ離レテ兩者ノ關係止ミタルト

キハ保險契約ノ當然消滅スルヲ以テ普通ノ法理ナリトス然レトモ是レ實際上
甚シキ不便不利ヲ招クモノナルカ故ニ我商法ニ於テハ被保險者カ保險ノ目的
ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡セタルモノ
ト推定スル旨ヲ規定セリ第四〇四條參看是レ被保險者ニ取リテ甚タ便益ナル
規定ニシテ保險ノ發達シタル諸國ニ於テ採用セラル、所ノ主義ナリトス然レ
トモ此讓渡力著シク危險ヲ變更増加セシメタル場合ニハ保險契約ハ當然其効
力ヲ失フコトヲ規定シテ以テ保險者ノ利益ヲモ保護セリ茲ニ此讓渡ノ將來
以上ハ損害保險ニ付テ言フ所ナルカ生命保險ニ於テハ如何ト云フニ生命保險
ニ於テ所謂保險契約ニ因リテ生シタル權利トハ保險金ヲ受取ル權利即チ保險
金受取人タルコトニシテ此權利ノ讓渡シ即チ保險金受取人ノ變更ハ我商法モ
之ヲ認メ第四百二十八條第二項ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者
ノ親族ニ限り之ヲ讓受タルコトヲ得ト規定セリ然レトモ是レ純足ニ規定タル
ヲ免レス何トナレハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ常ニ被保險者其相續人又ハ親
族ナルコトヲ要スルコト第四百二十八條ノ第一項ニ明カナリ讓渡ニ付テモ親

族以外ニ讓渡スコトハ不可能ナルコト敢テ此第二項ヲ要セサルナリ特ニ此第
二項ノ條文ニ據レハ元來保險金受取人カ被保險者ノ親族ト定メアリシ場合ニ
之ヲ被保險者自身ニ讓リ受ケントスルモ爲スコトヲ得サルノ不理ニ陷ル恐
リ旁除スベキ條文ナリ茲ニ保險契約ノ讓渡ナルモノアリ保險契約ヲ一ノ目
的生命保險ニ於テ他ノ意味ニ於ケル契約ノ讓渡ナルモノアリ保險契約ヲ一ノ目
的ヨリ全然離レシメテ他ノ同種ノ目的ノ上ニ置ク方法ニシテ例ヘハ二十歳ノ
被保險者カ二十五歳マテ契約ヲ繼續シ來リタルニ保險料支拂ノ力ヲ失ヒ又ハ
他ノ原因ニ由リテ契約ヲ罷メント欲スルニ當リ解除ノ申込ヲ爲サズシテ之ヲ
他ノ同年齡ノ人ニ讓リ渡シ保險者カ其交代生命ノ健康ニ付テ異議ナキトキハ
之ヲ認メテ契約ヲ繼續セシムル方法ナリ我商法ハ此ノ如キ場合ヲ想像セサル
カ故ニ別ニ規定ヲ設ケスト雖モ保險社會ニ於テハ實際行ハレタ且不理ノ點ヲ
發見セサル所ナリトス茲ニ保險契約ノ讓渡ノ將來ニ對シテ保險契約者親
保險契約ノ移轉ハ保險證券ノ裏書ヲ以テ證スルヲ普通トス即チ保險契約者親
保險者カ何某ニ之ヲ讓渡ス云々ハ文言ヲ認メ署名捺印被保險者モ亦署名セテ

之ヲ證ス又保險附ノ物品ヲ仲買人ノ手ヲ經テ賣却スル場合ニ賣手ヲ買手ノ名ヲ知ラサルコトアリ此ノ如キ場合ニハ證券讓受人ノ姓名ヲ記入スルヲ得ニ密欄ヲ設ケ置クカ或ハ所持人ナル文字ヲ挿入スルコトアリ是等ハ法律上別ニ一定ノ方式無ク習慣ニ依リテ行ハルモノト知ルヘシ

第八節 保險契約ノ消滅

保險契約ハ損害發生シテ保險者之カ填補ヲ實行シタルトキニ消滅スルハ言ヲ俟タス又當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ解除シテ消滅セシムルヲ得ルコト勿論ナリト雖モ尙ホ左ノ多クノ場合ニ於テ消滅スルモノナリ

甲 當然消滅

一 被保險利益ノ消滅

例ヘハ火災保險ニ付セラレタル家屋カ突然洪水ノ爲メニ流失シタル場合ノ如シ

我商法ニ於テハ生命保險ニ於テ被保險利益ヲ認メズルニ似タレトモ第四百二十八條第三項ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ

被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立ヲタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ト規定セ後段被保險利益ノ消滅ト共ニ契約モ消滅スルカハ如キ意ヲ表ハセリ

二 危險ノ消滅

例ヘハ汽船ヲ横濱ヨリ廣島ニ到ラントスル被保險貨物カ神戸ニ於テ陸揚セラレタル場合ノ如シ海上危險カ突如トシテ消滅シ隨テ契約ハ自然ニ消滅ニ歸セルナリ

三 保險期間ノ經過

例ヘハ定期生命保險ヲ契約シタル被保險人カ無事該年限ヲ經過シタル場合ノ如シ而シテ之ハ契約カ中途ニ消滅スル場合ニ非スシテ契約カ完全ニ履行セラレ保險者カ擔保ノ責任ヲ盡シテ契約消滅シタルナリ予ハ之ヲ保險契約ノ履行ナリト思ヘリ而モ農商務大臣ノ保險ニ關スル細則ニハ履行ヲ保險金支拂ニ限ルカ如ク解釋セリ奇怪ナル哉

四 保險料ノ不拂

保險契約カ双務契約ナル當然ノ結果ニシテ保險契約者カ保險料ヲ支拂ハハサルハ最早契約ノ利益ヲ拋棄セタルモノト推定スルコトヲ得故ニ期日ニ於ケル不拂ノ瞬間ニ契約消滅スルモノナリ

五 危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加セタルトキ(第四一〇條)

六 目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加セシメタルトキ(第四〇四條)

以上ハ保險契約ノ要素ノ消滅又ハ欠缺ヲ來セル場合ニシテ契約消滅シテ無効ト爲ルコト敢テ喋々ヲ要セサルナリ

乙 解除

一 危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加セタルトキ(第四一〇條)

例ヘハ被保險家屋ノ近傍ヘ湯屋鍛冶屋ノ如キ者カ新設セラレタル場合ニ保險者カ契約ヲ解除ヲ請求スルコトヲ得ルガ如シ

二 當事者ノ一方カ破産宣告ヲ受ケタルトキ(第四〇六條)

保險者カ破産スレハ保險金支拂ノ義務ヲ果スコト能ハサルヘク保險契約者カ破産スレハ保險料ヲ支拂フコト能ハサルヘシ此ノ如キ者ト契約スルハ危險ナルカ故ニ相互ニ契約解除ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

丙 不成立

不成立ハ初ヨリ契約ノ成立セサルコトニシテ嚴格ニ言ヘハ契約ノ消滅ト云フコトヲ得サルモノナレトモ已ニ成立セリト思ヘル契約ノ後ニ不成立ナルコトヲ發見セラルトキ恰モ契約消滅ノ觀アルヲ以テ序ニ茲ニ列記スルコトセリ

一 契約當時ニ當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ已ニ生シタルコトヲ知レルトキ(第三九七條)

保險ハ損害ノ發生ヲ恐ルヘカ爲メニ起ル所ノ契約ナリ初ヨリ損害ノ發生セサルコトヲ知ルニ於テハ豈此契約ヲ結フノ愚者アラシヤ又保險ハ將來發生スヘキ損害ヲ保證スルモノナルカ故ニ已ニ事故ノ發生セル場合ニハ

契約ノ成立セサルニ無論ナリ
 二 契約ノ當時保險契約者生命保險ニ在リテハ被保險者モカ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告グス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキ(第三九八條)
 例ヘハ火災保險契約者カ被保險物ノ性質構造位置等ニ付テ隱蔽虛陳又ハ錯誤ノ陳述ヲ爲シ生命保險ノ被保險者カ自己ノ自體ニ付テ虛偽ヲ陳ヘタル場合ノ如シ然レトモ重大ナル過失重要ナル事項等ノ文字ハ事項問題ニ入リテ屢々爭議ノ基ヲ爲スカ故ニ予ハ保險者ノ要求シタル事項ニ付キ云々ト改正セハ如何トノ念ヲ抱ケリ
 但餘リ明白ナル虛陳不陳等又ハ保險者カ充分力ヲ盡スヘキニ之ヲ怠リテ虛陳不陳ヲ發見セザリテ場合ノ如キハ失保險者ニ在リテ契約無効ヲ主張スルヲ得サルナリ
 二 保險契約者カ委託ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シ而モ其旨ヲ保險契約者ニ通知セザリシトキ(第四〇二條)

令ヲ發布セシメタリ是ニ於テカ債權者ハ期限ニ至リテ元金ノ取立嚴重ト爲タルノミナラス新ニ貸シ付ケントスルモノ少ク彼等ノ社會ハ益々金融逼迫當時公債ノ利子五歩ナルニ拘ハラズ彼等ノ借用金ノ利子ハ一割乃至一割五分ニシテ甚シキニ至リテハ二割ノ高利ヲ仕拂フニ非ナレハ貸シ渡スモノナキニ至レリ是ニ於テ彼等ハ又其救済ヲ國王フレデリック二世ニ求めタリ國王ハ其求メニ應ジテ西曆一千七百六十九年(ヘルシン府ノ商人ビエーリング氏ノ考案ニ基キ勅令ヲ發布シテ強制的組合制ノ土地抵當銀行ヲシレジエーン洲ニ設立シ其洲内ニ住スル貴族ハ新銀行ヲ利用スルノ意思アルト否トヲ問ハス強制的ニ其組合員タラシメ其責任ハ無限ニシテ且組合員ハ銀行ノ許可ナク其土地ヲ賣買賃入書入等ノ處分ヲ爲スコトヲ禁シ組合員ヨリ銀行ノ重役ニ選舉セラレル時ハ極メテ僅少ナル報酬ヲ得テ其職ヲ盡サザルヲ得サルモノニシテ重大ナル理由アルニ非サレハ之ヲ辭退スルコトヲ許サズ又一方ニ於テハ國王ハ此組合制ノ銀行ニ準備金ヲ下付シ且銀行カ業務ヲ營ムニ付キテ法律上ノ手續ヲ爲スニ當リテ要スル各種手数料ノ特免若クハ割引ヲ許シテ此銀行ヲ保護セタリ此組

合制銀行ノ媒介ニヨリ國王ハ其配下ノ貴族ヲシテ高利ノ舊債ヲ低利ノ新債ニ借り換ユルコトヲ得セシメタルヲ謂フ。此組合制銀行ヲ「ラシドシヤフト」トイフ而シテ組合員ハ高利舊債ヲ償還セシム欲スルトキハ其所有地及舊債高ヲ組合ニ申出タシメ組合ノ重役ハ其土地カ其申出タル金額次ノ抵當タルニ十分ナリト認メタルトキハ銀行ハ新ニ一ノ負債證券ヲ作り申出人ノ提出シタル土地ヲ抵當トシ申出人ヲ借主ト爲シ銀行カ自ラ保證人ト爲リ債權者ノ宛名ヲ記載セスシテ申出人ニ渡スナリ申出人ハ此證券ヲ受取リテ適當ナル金主ヲ求メテ其證券ヲ賣却シテ現金ヲ收メ以テ高利ノ舊債ヲ償却セリ此方法ニヨルトキハ此新證券ニ依ル債權ハ極メテ確實ナル検査ヲ經タル不動產ノ抵當アルノミナラス組合員ノ連帶責任ヲ以テ保證セラル、カ故ニ大ニ信用ヲ得此銀行ヲ組合員ハ之レマテヨリハ進ニ低利ヲ以テ資金ヲ借入ル、コトヲ得タルノミナラス無記名證券ナルヲ以テ元ノ普通ヲ借用證ト異ナリテ他人ニ轉賣スルコト稍、輕便ト爲リタレトモ貸主ハ其受取ルヘキ元利金ヲ直接ニ借主ニ付キテ取立ヲサレハカサレノ煩勞アルヲ以テ借

主ヨリ遠隔メ地ニ在ル者ハ此證券ヲ買取ルコトヲ好マス從テ其流通區域狹隘ナルヲ以テ先ノ普通借用證券ヲ以テスルヨリハ何分カ長期ニ貸出スモノアレトモ借主ノ望ミ通ニ十分長期ニ貸出ス者ナシ又此場合ニ於テハ貸借ノ關係ハ一個人ト一個人トノ直接ノ關係ナルヲ以テ年賦償還ノ法ヲ用ルコト能ハス次ヲ組合ハ債權者ノ便ヲ計リテ組合員ヨリ小額ナル積立金ヲ爲サシメ組合員ヨリ其負債ノ元金又ハ利金ヲ一旦銀行ニ於テ取立テ置キ且負債者中日限ヲ誤リタルモノアルトキハ準備金ヲ以テ立替ヘ置クコト、定メ期日ニ至リテ銀行ヨリ債權者ニ元利金ヲ支拂フコト、定メタリ之ニヨリ債權者ハ大ニ便益ヲ得タルヲ以テ此負債證券流通益、圓滑ト爲リタレトモ尙ホ或特定ノ不動產ハ特定ノ債權ノ抵當ナルト貸借ノ關係者ハ一個人ト一個人ト爲ルヲ以テ尙ホ年賦償却法ヲ用ルコト能ハス債務者ニ取リテハ尙ホ甚タ不便ナリシヲ以テ債務者ノ利益ヲ計ルヲ主タル目的ト爲ス此種ノ銀行ハコレマテノ如ク信用ノ媒介貸借ノ保證人タル地位ヲ去リテ組合員ヨリ舊債借換ノ申請アリタルトキハ銀行ハ自己ニ對シテ土地抵當信用證券ヲ差出サシメ之ヲ受取リテ自己ノ金庫中ニ

藏メ其代リトシテ銀行ハ其庫中ニ收メタル土地抵當信用證書ヲ引當トシテ銀行自ラカ債務者タル無記名證券ヲ作成シテ組合員ニ渡シタリ此事タル不動産抵當債券ノ沿革上頗ル重要ナル進歩ニシテ此方法ノ具體ハ銀行保證ノ負債證書ヲ分割シテ銀行ノ金庫中ニ在ル借用證書ト銀行ノ債券トノ二ツニ爲シタルニ在リ而シテ組合員ハ銀行ノ債券ヲ受取リテ市場ニ賣却シテ現金ト爲シテ之ヲ以テ已ノ舊債ヲ償還シタリ其後ニ至リテハ尙ホ一層組合員ノ便ヲ計リ銀行自身カ債券ヲ市場ニ賣却シテ組合員ニハ現金ヲ渡スニ至レリ此種ノ債券ハ銀行カ組合員ヨリ受取リテ其金庫ニ藏スル土地抵當借用證書ヲ引當トシテ發行シタルモノ爲ルカ此債券所持者ノ權利ハ最早或特定ノ不動産抵當權ニヨリテ擔保セラル、モノニアラスシテ銀行ノ有スル不動産抵當付債權全體ニヨリテ擔保セラル、モノナリ是ニ至リテ始メテ實際ノ金主即チ債券所持者ト土地抵當權トノ直接ノ關係ヲ止メ其間ニ信用確固タル銀行介立シタルヲ以テ組合員ノ一口ノ借入申請金額ノ如何ニ拘ハラス債券一枚ノ金額ヲ隨意ニ止ムルコトヲ得セシメタルノミナラス金主ヲシテ資金ヲ放下スルカ爲ニ要スル手續ヲ省

略スルコトヲ得セシメタリ、レカノミナラス此組合制銀行ハ其制度頗ル確實ニシテ設立以來飢饉若クハ戰亂ノ場合トイヘトモ支拂ヲ怠リタルコトナキヲ以テ非常ノ信用ヲ博シ且債券ノ流通益、圓滑ト爲リ其額面金額モ一定シ爲ニ資本主カ資本ヲ安全ニ放下スルニ最良ノ手段ト爲リタルヲ以テ債券ヲ引受ケ又ハ買入レント欲スル者ハ最早其償還時期等ニ重キヲ置カサルニ至レリ是レ債券所持者ハ其所有ノ間ハ一定ノ利子ヲ受取リ元金ヲ要スルトキハ何時ニテモ市場ニ賣却シテ之ヲ求ムルコトヲ得ルヲ以テ不時ノ必要ニ備フル爲ニ短期一時拂ノモノヲ求ムル必要ナキニ至リタルヲ以テナリ是ニ至リテ銀行ハ長期償還ノ債券ヲ發行スルヲ得ルニ至レリ而シテ又其債券ハ流通證券ト爲リタルノミナラス一銀行ノ發行シタル總高モ甚タ多ク銀行ヨリ貸付ケタル金高モ之と同シタ多額ト爲リタルヲ以テ借主ヨリハ年賦ノ方法ニヨリテ年々利子ト共ニ元金ノ一小部ヲ受取リ其利子ハ金額ニ應シテ債券所持者全體ニ支拂ヒ各借主ヨリ受取リタル小額ノ減價元金ヲ集メテ其金額タケノ銀行ノ債券ヲ消却スルコト、爲シタルヲ以テ借主ニハ年賦償還ヲ許シ債券所持者ニハ全額一時ニ支

拂ヒタリ是ニ至リテ債券ハ殆ト其完全ナル發達ヲ爲シタルモノニシテ借主及
金主双方ニ十分ナル満足ヲ與フルモノトテ得ル所アリ
此發達シタル債券ノ働キヨリテ始メテ營ムコトヲ得ル長期年賦ノ貸付ノ方法
ハ農業者ニ取リテ頗ル便利ナル方法ニシテ獨リ舊債償還ノミナラス新事業費
ヲ借入ルハニ付テモ頗ル便利ナルカ故ニ遂ニ此種組合制銀行ハ新事業費ニ對
シテモ貸出ノ門戸ヲ開キタリ然リト雖モ貴族外ノ土地所有者モ此便益ヲ得ン
コトヲ望ミタルヲ以テ彼等モ亦舊來ノ貴族組合銀行タル「ランドシャフト」ニ加入
ヲ乞ヒ又ハ新ニ彼等ノミニテ獨立ノ「ランドシャフト」ヲ設立セタリ此ノ如クニ
「ランドシャフト」ノ基礎次第ニ確マルニ從テ工業者モ亦不動產ヲ有シ長期
ノ資金ヲ要スルコト農業ニ類スルヲ以テ幾分カ工業者ヲモ加入セシムルコト
ヲ得セシメ土地抵當銀行タル「ランドシャフト」ハ一轉シテ不動產抵當銀行ト爲
リタリ又是マテ「ランドシャフト」ハ無限責任組合ナルヲ以テ其制度ノ普及困難ナ
リシカ遂ニ法ヲ寬ニシ有限責任ノ「ランドシャフト」ヲ設立スルコトヲ免許セリ
然リトイヘトモ「ランドシャフト」ノ貸付ハ組合員ニ限ルヲ以テ廣ク組合外ノ者

ニ恩惠ヲ施スコト能ハサルヲ以テ千八百六十年頃ヨリ資本家相集リテ佛國ノ
制ニ倣フテ營利ノ爲ニ株式組織ノ銀行ヲ設立シ其中央政府ノ特許ヲ得タルモ
ノハ債券ヲ發行シテ「ランドシャフト」ト相併セテ長期年賦ノ貸付ヲ爲ス又一方
ニ於テハ「ランドシャフト」ハ其營業區域ニ洲内ニ限ラル、ヲ以テ其組織小ナル
ト地方ニ偏在スルニヨリテ其地方ニ信用アルニ拘ハラス其債券ハ中央市場ニ
於テ十分ナル信用ヲ得ルコト能ハサリシカ故ニ千八百七十三年普魯西國內ノ
九個ノ「ランドシャフト」ハ相聯合シテ中央「ランドシャフト」ヲ柏林府ニ設立シ各
州ノ「ランドシャフト」ニ代リテ中央市場ニ於テ極メテ低利ニ債券ヲ發行シテ實
金ヲ集メ之ヲ各個「ランドシャフト」ニ配分スルノ方法ヲ取ルニ至レリ一千八百
八十年ニ至リテハ普魯西全體ニ於テ「ランドシャフト」二十八個アリ株式銀行三十
五個アリテ共ニ長期年賦貸付ヲ爲シ注トシテ農業者ノ金融ノ便ヲ計ル
佛國ニ於テモ亦農業信用組織整理ノ問題ハ重大ナル國家問題ナリシカ千八百
三十五年佛國ノ大家オロスキー氏ノ獨逸ノ不動產信用制度ニ關スル著書出版
セラレ千八百四十五年ニハ政府ヨリ獨逸國ニ調查ヲ爲特ニ派遣セラレタル

エニル民ノ報告書公ニセラレ其後議會特別調査會等ニ於テ長年月間論究ノ結果千八百五十二年二月二十八日土地抵當銀行保護法發布セラレ其法律ニ基キテ其初メテ巴里馬耳塞チバニ相踵キテ土地抵當銀行設立セラレタレトモ幾何モナク合併シテ佛國土地抵當銀行ト爲リ二十五年間ノ專賣權ヲ付與セラレタルノミナラス準備金ノ下付政府及府縣ニテ債券ノ買入ヲ爲シ効者財產保護者ニ財產保護ノ方法トシテ此銀行債券ノ買入ヲ許ス等各種ノ保護ヲ與ヘルト同時ニ政府ハ嚴重ニ業務ヲ監督シ重役ノ任命ヲ爲シテ其營業ヲ確實ナラシメタリ而シテ此銀行ノ貸付資金モ主トシテ割増付債券ニヨリテ得ルモノニシテ設立後盛ニ債券ヲ發行シテ長期年月貸付ヲ爲シテ農工業ノ便利ヲ計リタリ千八百七十年乃至七十一年此國一般ニ金融社會困難セシモ此銀行ハ少シモ影響ヲ受ケス三分利附政府ノ百フラン公債ハ一時五十五フランニ低落タルモ佛國土地抵當銀行ノ三分利ト八厘ノ割増金附ナル債券ハ九十八フランノ價格ヲ保チ其後經濟社會ノ回復ト共ニ銀行債券ハ常ニ額面以上ニテ賣買セラル爲リ而シテ此銀行ハ一千八百七十九年各洲ニ一個支店ヲ設置シ全佛國ニ涉リテ

ノミアリテ商號ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ明文ナシ故ニ或ハ商號ハ商人ノ商行爲ニ付テハ商人ヲ代表スルモノナリトノ理由ヲ以テ商人ヲ支拂人ト指定スル場合ハ其商號ヲ用フルモ妨ケナシト論スル者アラシ然レトモ予ハ舊商法ノ下ニ於テモ爲替手形ノ支拂人ト指定セラルヘキ者ハ非商人ハ勿論商人ト雖モ氏名以外ノ商號等ヲ以テ表示スルコトヲ得サルモノナリト信セリ蓋シ手形ハ峻嚴ナル形式ニ從ヒ成立スルモノナルヲ以テ法文ノ規定外ニ於テ形式ヲ認ムヘカラサレハナリ(舊商第七一六條)

右ノ規定ニ依レハ支拂人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルコトハ必要ナルモ其住所ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス但手形ニ支拂人ノ住所ヲ記載スルコトハ實際上極メテ便利ナリ是レ支拂人ニ手形ヲ呈示スルニ付キ特ニ其住所ヲ尋ヌル手數ヲ省クコトヲ得レハナリ

支拂人ノ住所ノ記載ハ手形ノ成立要件ニ非ルモ其要件トシテ取扱フヘキ場合アリ抑手形ニ其支拂地ヲ記載スルコトハ必要ナリト雖モ時ニ或ハ此記載ヲ爲サハルコトアリテ其手形カ無効ト爲ルコトアリ然レトモ若シ手形ニ支拂人

ノ住所ノ記載アルトキハ之ヲ以テ支拂地ト看做スカ故ニ其手形ハ有効ナル
 へシ(第四五二條是レ支拂人ノ住所ノ記載カ手形成立ノ要件ト爲ル場合ナリト
 ス)又爲替手形ノ支拂人ハ振出人ト異ナルヲ以テ通例トスレトモ振出人ハ自己ヲ
 支拂人トシテ記載スルコトヲ得是レ新舊法全ク同一ナル所ニシテ所謂自己拂
 爲替手形ナルモノナリ(第四四七條舊商七一七條)自己拂ノ爲替手形ニ於テ若シ支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ實^〇上約束手形
 ト異ナル所ナキヲ以テ法律上自己拂ノ爲替手形ヲ認ムルノ必要ナシト思惟ス
 ル者アラシカ是レ大ナル誤謬ナリ蓋シ約束手形ト自己拂爲替手形トハ之ヲ使
 用スル者ノ意思ヨリ觀察スルモ大ニ其趣ヲ異ニス例ヘハ本店ヨリ爲替手形ヲ
 振出スニ付キ其支店ヲ以テ支拂人ト定ムル如キハ約束手形ヲ振出スニ比シテ
 一層便利アリト謂フヘキカ如シ加之自己拂爲替手形ト約束手形トハ法律ノ規
 定上全然異ナルモノナレハ決シテ同一視スルコトヲ得サルモノトス今其重ナ
 ル差異ヲ舉クレハ左ノ如シ

爲替手形ノ振出人ハ縱令同時ニ支拂人ナル場合ト雖モ手形上主タル債務者ニ
 非ス振出人カ手形所持人ノ請求ニ應ジテ引受ヲ爲セタルトキ始メテ其主タル
 債務者ト爲ル支拂人ト記載セラレタルカ爲メ直チニ債務者ト爲ルモノニ非ス
 支拂ノ引受ヲ爲サハ限ハ償還義務者タルニ過キサルナリ是レ既ニ總論ニ於
 テモ述ヘタル所ノ如シ故ニ振出人タル支拂人ハ引受ノ請求ヲ受ケタル場合ニ
 於テモ引受ヲ拒絶スルコト全ク自由ナリトス而シテ其引受ナキハ所持人
 ハ他ノ爲替手形ニ於ケル如ク振出人ニ對シテハ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル
 ノミ又所持人ハ之ニ對シテ拒絶證書ヲ作ルコトヲ要スルモノトス之ニ反シ約
 束手形ノ振出人ハ手形ノ作成ト同時ニ手形金額支拂ノ義務ヲ負フモノナリ即
 チ約束手形ノ振出人ハ其振出ト同時ニ主タル債務者タリ故ニ實際上ニ於テモ
 將タ其法律ノ規定ニ於テモ二者同シカラサルコト明白ナルヘシ自己拂爲替手
 形ヲ約束手形ノ外ニ規定シ流通セシムル必要アル所以ナリ
 支拂人ハ自然人タルト法人タルトニ拘ハラサルモノトス故ニ振出人ノ指示ス
 ル所ニ從ヒ或ハ自然人或ハ法人カ支拂人ト爲ル且支拂人ハ同時ニ數人ナルコ

トヲ妨ケス而シテ此場合ニ於ケル支拂人相互ノ關係ハ商法總則ニ依リ引受ヲ爲シタル者ノ間ニハ連帶ノ義務ヲ生スヘシ

第四 受取人ノ氏名又ハ商號
受取人ノ氏名モ亦支拂人ノ如ク商號ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ得爲替手形ノ受取人ハ通例振出人ト異ナルモ振出人ハ自己ヲ受取人ト爲スコトヲ妨ケス第四四七條且若シ爲替手形ノ金額カ三十圓以上ナルトキハ手形ニ受取人ヲ記載スルコトナク所持人ニ支拂フヘキ如ク定ムルコトヲ得所謂無記名式ノ爲替手形是ナリ(第四四九條無記名式トハ手形ニ振出人ノ記載ナキヲ謂フニ非ス受取人ノ記載ナキヲ謂フ而シテ無記名式ノ爲替手形ハ金額三十圓以上トシ以テ記名式手形トノ分界ト爲ス舊商法ニ於テハ二十圓カ無記名式手形ノ最小額ナリシヲ右ノ如ク改メシモノハ通貨ノ價格從前ト其比例ヲ異ニスルニ由ル而シテ爲替手形ヲ無記名式トシ發行スルニハ三十圓以上ナルコトヲ要スルモノハ蓋シ無記名式爲替手形ノ金額カ小額ニ過クルトキハ或ハ紙幣ノ如ク使用セラレ爲メニ無智ノ小實力者カ欺カル、危險ナキヲ得サルニ由ルナリ然レトモ其金

額ノ定ハ固ヨリ立法者ノ概見斷ニ依ル必シモ三十圓ナラサルヘカラス確乎タル理由アルニ非ス(第四四九條現商第七一八條)

第五 單純ナル支拂ノ委託
爲替手形ニ於ケル支拂ノ委託ハ單純ナルコトヲ要ス是レ手形債務ハ既ニ總論ニ於テ詳論シタル如ク確定ニシテ且其結果ヲ豫知シ得ル所ノモノ爲ルコトヲ要スルニ由レテ所謂單純ナル支拂ノ委託トヘ其手形ノ支拂ハ條件附ニ非ス又ハ反對給付ヲ要スル如キコトナク履行セラルヘキ委託アルヲ謂フ蓋シ手形ノ性質上斯ノ如クナラサルヘカラス若シ或條件ノ到來ニ因リ又ハ反對給付ヲ須シテ支拂ハル、モノトセンニハ手形ノ所持人ハ果シテ支拂ヲ受タヘキヤ否ヲ確知スルコト能ハサルカ故ニ手形ノ流通ハ自然妨ケラレ一時金銭ニ代用シ得ル便宜ノ性質ニ反スル結果ヲ見ルニ至ラン是レ手形支拂ノ委託ハ單純ナラサルヘカラス所以ナリ舊商法ニ於テハ明カニ手形ニ條件ヲ附スルコトヲ得スト規定シタルトモ(舊商第六九九條第二項手形債務上當然ナルモノトシ改正商法ニ於テハ之ヲ明記セスト雖モ單純ナル支拂ノ委託ト云フトキハ同一ノ意

義ヲ示スニ於テ極メテ明瞭ナリト謂フヘシ
第六 年月日
振出ノ年月日ハ手形ノ成立要件ニシテ實際上極メテ重要ナルモノナリ何トナレハ振出人ハ能力者ナルヤ否ノ問題ノ如キハ此日附ニ依リ之ヲ決スルコトヲ得ヘケレハナリ例ヘハ破産者カ爲替手形ヲ振出シタル場合ノ如シ其日附ニ從ヒ或ハ絶對無効ト爲リ或ハ取消シ得ヘキ場合ト爲ル如ク重大ナル關係ヲ生スルコトアルヘシ故ニ其何日ニ振出シタルカラ記載スルコトハ極メテ緊要ナリ

第七 一定ノ満期日
満期日ハ必ス一定ナルコトヲ要ス不定ノ期日ハ満期日ト爲スコトヲ得ス故ニ當然ノ結果トシテ何月何日ヨリ何月何日ノ間ニ支拂ルヘシト記載シタル爲替手形又ハ支拂人ノ希望スル日ニ支拂フヘシト記載シタル手形ノ如キハ法律上無効ナリトス然ラハ一定ノ満期日ハ如何ニ之ヲ定ムヘキモノナルヤ是レ第四百五十條ノ規定スル所ナリ同條ニ依レハ(一)破産セラル日(二)日附後破産セル期間ヲ經過シタル日(三)一覽ノ日(四)一覽後確定セル期間ヲ經過セタル日ヲ以テ満期日

ト爲スコトヲ要ス其以外ニ於テハ手形上満期日ハ一定セリト謂フコトヲ得ス但全ク支拂日ノ記載ナキ手形ハ一覽拂ノ手形ト看做サル

第八 支拂ノ地

支拂地モ亦一定スルコトヲ要ス支拂地カ一定セサルトキハ爲替手形上必要ナル手續ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ其場所ハ必ス嚴格ニ定ムルコトヲ要ス然レトモ爲替手形ニ支拂地ノ記載ヲ缺クコトアリ此場合ニ於テ若シ支拂人ノ住所ノ記載アルトキハ支拂人ノ住所地ヲ以テ支拂地ト看做ス(第四五二條)

茲ニ注意スヘキコトアリ他ナシ所謂支拂地ト支拂ノ場所トヲ混淆セタルコトヲ要スルコト是ナリ支拂地トハ市町村ノ區畫ト同一ニシテ又市町村制ノ施行ナキ地方ニ於テハ從來ノ町村ヲ以テ支拂地ト爲スモノナリ故ニ手形ニ東京トアレハ其支拂地ハ東京市ニシテ手形金額カ現ニ支拂ハルヘキ場所例ヘハ東京市ノ何町何番地ヲ謂フニ非サルコトヲ記應スヘシ之ニ反シテ支拂ノ場所トハ手形カ現ニ支拂ハル場所ヲ謂フ故ニ支拂地ヲ東京市ト記シタル手形ハ日本橋區何町何丁目何番地又ハ麴町區何町何番地ニ於テ支拂ハルモノ爲ルコト

アルヘシ爲替手形ニハ其支拂地ノ記載アルトキハ支拂ノ場所ノ記載ナキトキト雖モ其成立ヲ妨ケス但振出人ハ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ定メント欲スルトキハ之ヲ記載スルコトヲ得第四五四條且若シ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナルトキハ他人ヲ以テ支拂擔當者ト爲シ之ヲ爲替手形ニ記載スルコトヲ得所謂他所拂爲替手形ト稱スルモノ是ナリ第四五三條而シテ爲替手形ニ右ノ記載ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ其振出人ノミ

第九 振出人ノ署名

爲替手形ノ署名即チ振出人カ其氏名ヲ自署スルコトハ手形成立ノ最重要ナルモノナリ何トナレハ之ニ依リ手形債務ヲ生セシムル人定マルヲ以テナリ若シ振出人カ署名ヲ爲サザリシトキハ縱令後日ニ至リテ自ラ手形ノ引受人又ハ保證人ト爲リ之ニ署名シタリトスルモ其手形ハ後ノ署名アルニ因リテ効力ヲ生スルコト能ハス蓋シ手形行爲ハ原手形ノ成立ヲ埃チテノミ存在スヘキモノナレハナリ

以上ハ商法第四百四十五條ニ規定スル爲替手形ノ形式要件即チ必要事項ニ關ス

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ罫紙ニ問題ト其疑點

トラ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ

半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メタ

ル質疑ハ回答セス

亂筆讀ミ難キモノ趣意不明ナルモノ

亦同シ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義錄

ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ

シ

葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十二年十二月廿四日印刷
明治三十二年十二月廿五日發行

編輯者
東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地
小田 幹治 郎

印刷者
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 鐵五 郎

印刷所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 浩 版 所

發行所 司法省 **和佛法律學校**

所在 (東京市麹町區富士見
町六丁目十六番地)

電話 (番町) 百七十四番

明治廿二年十二月九日內務省許可